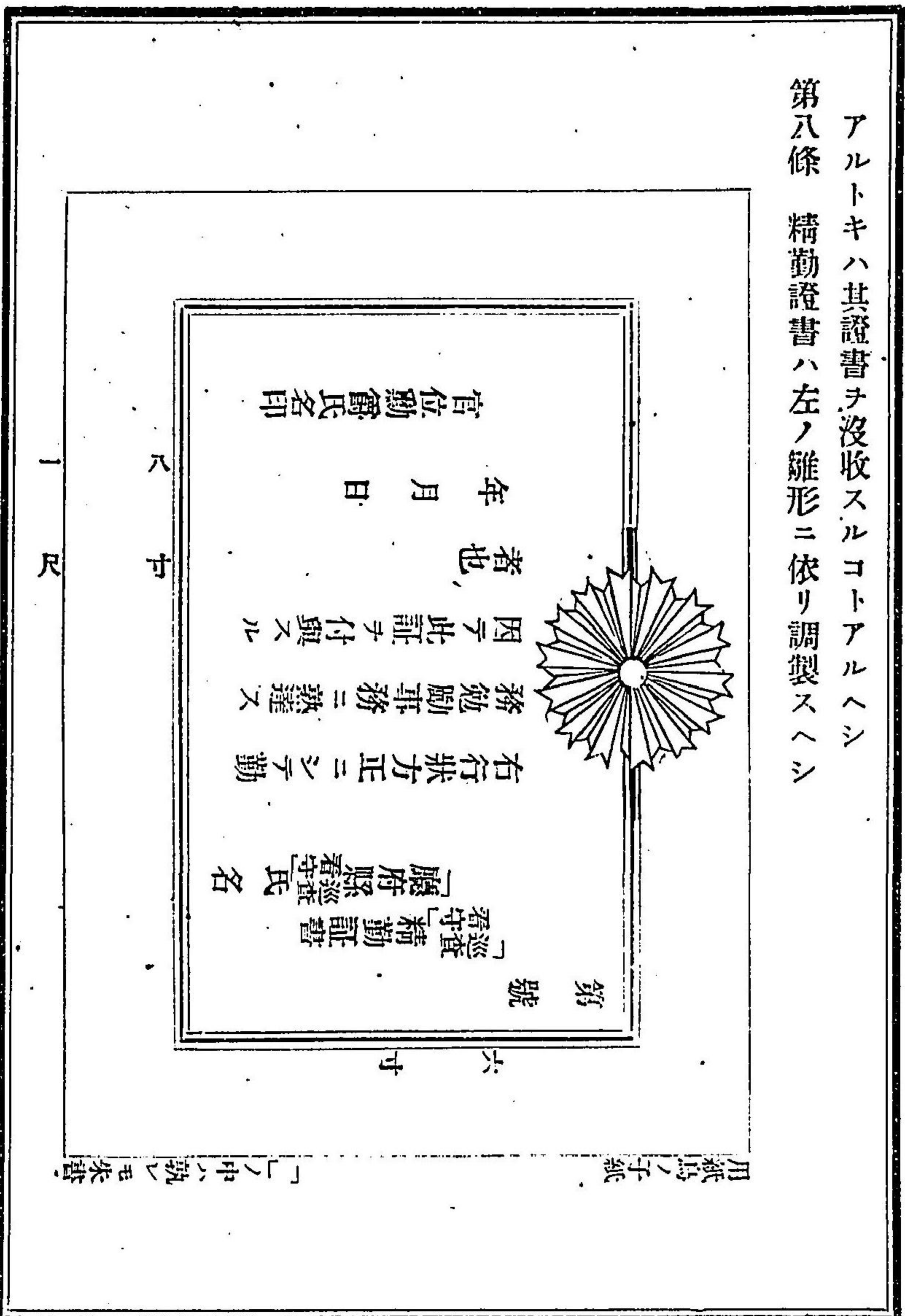


アルトキハ其證書ヲ沒收スルコトアルヘシ  
第八條 精勤證書ハ左ノ雛形ニ依リ調製スヘシ



### 第五節 巡查看守給助細則

●廳達第二十三號 明治二十年三月廿五日

第○部  
二○部  
警○察○本○部

明治十五年第四十一號公達ニ據リ巡查看守給助細則左之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

#### 巡查看守給助細則

- 第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡給助療治料祭祀料トシ以下各條ニ依リ支給ス
- 第二條 給助ヲ與フル者ハ左ノ各項ニ依ル
  - 一 退職給助
    - 一 勤續滿五年ノ者ハ一時金貳拾五圓ヲ給シ滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金四圓ヲ増給ス
    - 二 勤續十年ノ者ハ八年金貳拾八圓ヲ給シ滿十二年以上二年毎ニ金壹圓ヲ増給ス
  - 傷痕給助
    - 一 一等傷年金三拾五圓ヲ給ス
    - 二 二等傷年金貳拾五圓ヲ給ス
  - 死亡給助

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アルトキハ年金四拾圓ヲ給ス
- 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母又ハ二十歳未満ノ弟妹ニシテ死者ニ依リ從來ノ生計ヲ爲セシ者アルハ一時金七拾五圓ヲ給ス
- 三 相續者タル孤兒二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金七拾五圓ヲ給ス
- 一 療治料ハ傷痍又ハ疾病ノ輕重ニ依リ一日金一圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 一 祭祀料
- 一 奉職一年未満ニシテ死亡スル者ハ一時金十三圓ヲ給シ滿一年以上一年毎ニ金四圓ヲ増給ス
- 二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金七拾五圓ヲ給ス
- 第三條 年金支給計算法ハ退職及死亡者ハ其翌月傷痍者ハ傷等策定ノ翌月ヨリ支給ス其給與ヲ止ムル時ハ日割ヲ以テ計算支給スルモノトス
- 第四條 退職給助ト傷痍給助トハ併行フモノトス
- 第五條 本例實施前ノ勤續年數ハ之ヲ通算ス
- 但巡查ハ明治八年十月巡查ト改稱看守ハ明治十四年三月看守ト改稱ノ月ヨリ起算シ其後一旦打切滿年賜金ヲ得タル者ハ更ニ其月ヨリ起算ス

第六節 巡查看守給助例施行順序

●廳達第二十四號 明治二十年三月廿五日

警察本部

巡查看守給助例施行順序左之通相定ム

巡查給助例施行順序

- 第一條 給助ヲ出願スルモノハ左ノ手續ヲナスヘシ
- 一 年金ヲ受ケヘキ者(退職及傷痍者並竝給孤兒)ハ別紙第一、二號書式ノ願書ニ其郡區戶長ノ奥印ヲ受ケ當廳ヘ出願スヘシ
- 二 一時給助金ヲ受ケヘキ者(祖父母母弟妹並孤兒滿廿歳以上癡篤疾者)ハ別紙第三、四號書式ノ願書ニ親族二名(親族ナキハ其事由ヲ記スヘシ)ノ連署ヲ以テ其郡區戶長ノ奥印ヲ受ケ當廳ヘ出願スヘシ
- 三 療治料ヲ請求スヘキ者(數月ニ亘ルハ毎月末日マテノ分)ハ別紙第五號書式ノ請求書ニ主治醫ノ診察料手術料並藥價書等ヲ添ヘ巡查ハ本屬課署長看守ハ典獄ニ出シ課署長若クハ典獄ハ審査ノ上其事由證明書ヲ添付シ之ヲ本屬部長ニ進達スヘシ
- 但官ノ治療ヲ受クルモノハ該費用証書等取纏メ課署長ヨリ稟請スヘシ
- 第二條 本例ニ依リ年金及ヒ一時給助金ヲ受クル者ニハ第六、七號書式ノ証票又ハ辭令書ヲ付與ス

第三條 年金ハ毎會計年度二回(前半年度分ハ九月后半年度分ハ三月)管内ハ郡區役所其他ハ本人所在ノ管廳ヲ經テ下付スヘシ

但受給者ハ第八號書式ノ領收証書ニ所在郡區戸長ノ奥印ヲ受ケ証票ヲ添ヘ差出スヘシ

第四條 年金ヲ受クル者十五年第四十壹號公達第八條第九條ノ各項ニ該ルカ又ハ轉籍轉住死亡再婚等戸籍上異動アルトキハ原籍所在郡區戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ一ヶ月以内必ス届出スヘシ但公權剝奪若クハ死亡再婚等ニ係リ給助ヲ受クルノ權理消滅シタル時ハ該届書ニ付與シタル証票ヲ添ヘ返納スヘシ

第五條 傷痕給助ヲ受クヘキ者負傷又ハ傳染病ニ罹リ若クハ負傷ニ原由シ死亡シタル者ノ診斷及ヒ策定ノ場合巡査ハ本屬課署長看守ハ典獄若クハ看守長立會見證スルモノトス但傳染病ニ罹リ急遽ノ場合ハ本條ノ限リニアラス

第六條 前條醫員ノ診斷書及ヒ策定診斷証書ハ別紙第九號書式ニ依リ二通ヲ製シ一通ハ其見證ヲ了セシ事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ本屬部長ヘ報告シ一通ハ本人ヘ交付スヘシ

但開業醫ノ診斷ニ就キ疑フヘキモノアルトキハ更ニ府立病院醫員ヲシテ其診斷ノ當否ヲ判定セシムルコトアルヘシ

第七條 給助細則第二條死亡給助第三項ニ該ルモノ給助ヲ出願スル場合ニ於テハ其

最寄公立病院又ハ開業醫ノ診斷書ヲ添ヘ年金ヲ廢止シタル翌月中ニ出願スヘシ  
第八條 年金証書盜難若クハ水火災等ニテ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ速ニ届出再渡シテ請フヘシ

(第一號 用紙美濃紙)

退職給助願  
傷痕給助願

私義

何月何日退職候處滿何年間勤續(或ハ何月何日職務上負傷候處何等傷ニ策定相成)候就テハ相當ノ給助金下賜度(或ハ別紙策定診斷書相添ヘ)此段奉願上候也

何府何郡何町何番地族籍  
何縣何郡何村  
元何々詰巡査又ハ看守

何 某印

年月日

大阪府知事何某殿

何區長

何 某印

年月日

何町戸長

何 某印

右當區内本籍ノ者ニ相違無之候也

(第二號 用紙美濃紙)

孤兒給助願

私(夫又ハ)何某義巡查(看守)奉職中何々ノ爲メ何月何日死没候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戶籍書相添へ此段奉願上候也

年月日

何府何郡何町何番地族籍

故何某 寡婦又ハ孤兒

何年何月生

同

親族

何 某印

同

何 某印

大阪府知事何某殿

右當郡區内本籍ノ者ニ相違無之候也

年月日

何郡長

何 某印

何町戸長

何 某印

(第三號 用紙美濃紙)

死亡給助願

今般巡查(看守)何某職務ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共義從來死者ニ因リ生活罷在候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戶籍書相添へ親族連署ヲ以テ此段奉願上候也

年月日

何府何郡何町何番地族籍

故巡查何某 祖父母又ハ弟妹

何 某印

同

親族

何 某印

同

何 某印

大阪府知事何某殿

右當郡區内本籍ノ者ニシテ前書之通相違無之候也

何郡長

何 某印

何町戸長

何 某印

(第四號 用紙美濃紙)

癩篤疾給助願

私儀

明治何年何月ヨリ年金御給與相成居候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ至候得共癩篤疾ニ有之候間相當ノ給助金御下付被成下度別紙醫員診斷書相添ヘ此段奉願候也

何府何郡何町何番地族籍

故巡查看守何某(長男女)

年月日

何某印  
何年何月生

同親族何某印

同何某印

大阪府知事何某殿

右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

何區郡長何某印

何町戶長何某印

(第二第三號 戶籍書式 用紙美濃紙)

族籍	華士族平民	姓	何
職業	何々々(無業)	名	何
月長(次)主	何年何月何日相續或ハ別家養(實)子		現年何年何ヶ月
誕生年月日	何年何月何日		
本籍住所	何府何郡何町何番地	或ハ何某方	
寄留住所	同		
父母	某	年号何年何月何日生	
養父	全		
養母	全		
祖父母	全		
妻	某	何府何郡何町何番地何年何月何日生	入籍
嗣子	某	何年何月何日生	結婚
次男	某		
兄弟	全		
姉弟	全		

右當郡内戶籍簿之通相違無之候也

年月日

何區長

何某印

何町戸長

何某印

(第五號 用紙美濃紙)

療治料請求書

一金何程印

此譯

金何程印

金何程印

但診察(手術)料別紙何通

右ハ何月何日職務上負傷(或ハ傳染病ニ罹リ)候ニ付療治料御下渡被成下度此段及請

求候也

年月日

何々詰

巡査看守何某印

大阪府知事何某殿

(第六號)

何府縣族籍

元巡査何某

何府縣族籍故巡査何某妻(長男又ハ)

何某

何府縣族籍故巡査何某(養子等)

何某

給助之證

第何號

證

右ハ滿何年間勤續(故巡査看守何某)候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此

大阪府廳印

契印

何府縣族籍

給

助第

之何

證號

此証書實買與實入書入トス禁

元巡查 何

何年何月生

何府縣族籍故巡查何某妻(長男又ハ)

何

何年何月生

右者滿何年間勤續(故巡查看守何某)候ニ付年金何圓ヲ給與ス依テ此

證ヲ付與ス

明治何年月日

大阪府知事何某印

(第七號 用紙奉書紙)

元巡查 何 某

滿何年勤續候ニ付退職給助金何圓支給ス

年月日

大阪府

故巡查 何 某

遺族

常府巡查(看守)奉職中職務ノ爲メ死亡候ニ付(一時給助金何圓)祭祀料金何圓支給ス

年月日

大阪府

何府縣族籍

何 某

故巡查(看守)何某常府奉職中職務ノ爲メ死亡候ニ付明治何年何月ヨリ年金支給候

處滿二十歳ニ至リ廢(篤)疾ナルヲ以一時給助金何圓支給ス

年月日

大阪府

(第八號)

領受證

一金何程印

但何々給助金明治何年何月ヨリ何月迄御給與ノ分

右正ニ領受仕候也

何府縣何郡何村何番地族籍

元巡查(看守) 何 某 印

故巡查(看守)何某寡婦孤兒

何 某 印

大阪府知事何某殿

右ハ現今當郡内本籍(或寄留籍)居住ノ者ニ相違無之候也

何郡長

年月日

何 某印  
何村戸長 何 某印

一 寄留籍ニ於テ受取ヘキモノハ原籍ノ左傍ニ寄留地ヲ併記スヘシ  
一 一時賜金ヲ受クル者領受書ハ此書式ニ準倣ス尤郡區長及戸長ノ與印ヲ要セス  
(第九號)

傷等策定診斷證書

何々詰  
巡查(看守) 何 某

右何年月日強盜捕獲(或ハ何々)ノ際刀傷ヲ受ケ(傷痕ノ形蹟及ヒ施療ノ手續等詳細記載スヘシ)何月何日ニ至リ傷痕ハ治癒スト雖モ何眼盲目ニ至リ或ハ何腕用ヲ失フニ至ルヲ以テ終身不具トナリ自由ヲ辨スル能ハサルモノト(或ハ終身不具トナルモ自由ヲ辨シ得ルモノト)診斷策定候也

年月日

何所何番地  
何々病院長又ハ(醫員)  
(主治醫) 何 某印  
立會人 官 氏 名 印

一 負傷又ハ傳染病若シクハ負傷ニ原由死亡シタル者ノ診斷書モ此書式ニ準倣スヘシ

### 附 錄 巡查看守給助例

▲太政官第四拾壹號 明治十五年七月十七日

警視廳東京府沖繩縣附館札  
府 縣 廳 根 據 室 四 縣 ヲ 除 ク

巡查看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年(一月)第三號并ニ九年(八月)第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候義ト相心得ヘシ

#### 巡查看守給助例

第一條 給助ハ退職給助傷疾給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス

第二條 給助ヲ與フル者ハ左ノ如シ

- 一 退職給助 勤績<sup>ニ</sup>巡査ヨリ看守ニ看守ヨリ巡査<sup>ニ</sup>滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス
- 二 傷痕給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス
- 三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 四 療治料 職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス
- 五 祭祀料 奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス



第三條 退職給助ノ額

一 勤績滿五年ノ者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス  
滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ  
増給ス

二 勤績滿十年ノ者ハ年金貳拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給  
ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ  
増給ス

第四條 傷痍給助ノ額

一 一等傷(終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者)ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓  
ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二 二等傷(終身不具トナリ自用ヲ辨シ得ル者)ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ  
多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサ  
ル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二拾歳ニ至レハ廢止ス  
但寡婦アレハ孤兒ニ給セス

二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹

ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラ  
ス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癩篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ  
一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條 療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條 祭祀料

一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カ  
ラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサ  
ル額ヲ増給ス

二 職務ノ爲メ死亡スル者へハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多  
カラサル額ヲ給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受クルヲ得ス

一 公權ヲ剝奪セラレタル者

二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一 俸給ヲ受クル官職ニ就キタル者

二 公權ヲ停止セラレタル者

三 失踪シタル者

四 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

▲内務省乙第六十八號 明治十五年十二月十五日

警視廳(東京府神田區錦町) 縣廳(東京府神田區錦町)

本年七月第四十一號公達巡查看守給助例第二條第一項勤続割註ノ趣ハ全ク一地方内轉任スル者ニ限ル義ニ付此旨爲心得相達候事

附 錄 巡查看守給助例中年金支給方

▲内務省訓令第二十三號 明治廿年四月七日

廳 府 縣 集治監假留監

巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ

一年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六ヶ月ハ現月數ヲ以テ計算ス分ヲ支給スヘシ

一年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷痍ノ翌月ヨリ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタルモノ死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給スヘシ

附 錄 人員減少等ニテ免職ノ者慰勞金支給方

▲達第六十六號 明治十五年十二月十二日

警視廳(東京府神田區錦町) 府 縣(梶根區四縣ヲ除ク)

本年七月第四十一號ヲ以テ巡查看守給助例相達候處右實施ノ府縣ニ於テ人員減少等ニ因リ免職スルトコトアルトキ奉職五年未滿ノ者ハ免職當日迄ノ勤続年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ一時慰勞金トシテ支給スヘシ此旨相達候事

附 錄 職務ノ爲メ流行病ニ罹リタルモノ、

恩給

▲達第八十九號 明治十年十二月一日

省 使 府 縣

流行病豫防救治ノ爲諸官廳ニ於テ該事ニ服從セシムル雇ノ醫師檢疫委員並ニ地方公立病院醫師其他從事ノ者該病毒ニ感染及ヒ死亡候節ハ本年ヨリ左ノ規則ニ照準シ處分可致此旨相達候事

流行病豫防救濟ニ備使スル醫師以下感染及ヒ死亡手當規則

第一條 凡流行病アル節諸官廳ニ於テ豫防救治ノ方法ヲ施行スル爲メ備使スル醫師檢疫委員(官員ニテ委員トナルモノハ此限ニアラス)看護人並地方公立病院醫師其他人員夫等該病毒ニ感染及ヒ死亡スルモノハ此規則ニ照ラシ手當金ヲ給ス可シ

第二條 手當金ヲ分テ療養埋葬及ヒ遺族扶助ノ三種八等トナシ病者ハ療治料ヲ給シ死者ハ埋葬料及ヒ扶助料ヲ給スヘシ

第三條 手當金ノ差等ハ其月給ノ多寡ニ因テ之レヲ定ム即チ二百圓以上百五十圓以上百圓以上七十圓以上五十圓以上二十圓以上十圓以上十圓未満トナシ等級ニ應シテ支給スヘシ

但日給ノ者ハ一ヶ月ヲ平均三十日ト看做シ該日數ヲ乘シテ本條月給ノ等差ニ準スヘシ

第四條 療治料ハ自宅ニ於テ治療スルモノニ一日ニ付一圓ヲ給シ其官公立病院ニ入ルモノハ適宜官費ヲ以テ支給ス可シ

第五條 遺族扶助料ハ戸主ニシテ家族ナキ者及ヒ戸主ニアラスシテ妻子ナキ者ハ給セス尤死者戸主ニアラス且妻子ナキ者ト雖モ其死者ニ依リ活計ヲ營ミ來タル遺族(一戸籍内ニアルモノ)アレハ之ヲ給スヘシ

第六條 埋葬料ヲ給スルニ獨身ニシテ且親戚ナキ者ハ病院或ハ同僚或ハ區戸長ニ下付スヘシ

第七條 流行病ノ節雇入ル、醫師ノ月給ハ明治八年第四十九號達ノ通タルヘシト雖モ現ニ十五圓以上ノ給料ヲ以テ使府縣公立病院ニ從事スル醫師ヲ臨時該流行病ノ治療ニ任スルモノ並ニ虎列拉病ノ節拾五圓以上ヲ以テ雇ヒタル檢疫委員ハ此規則ノ表面ニ照シテ給スヘシ

手當表

月給	等級	療治料	埋葬料	扶助料
二百圓以上	一等	一日ニ付壹圓	拾圓	貳百五十圓
百五十圓以上	二等	全	四拾圓	百圓
百圓以上	三等	全	三拾五圓	百五十圓
七拾圓以上	四等	全	三拾圓	百貳拾五圓
五拾圓以上	五等	全	貳拾五圓	百圓
貳拾圓以上	六等	全	貳拾圓	八拾圓
拾圓以上	七等	全	拾圓	六拾圓
拾圓未満	八等	全	拾圓	四拾圓

閣令第二十三號

明治十九年七月十三日

各官廳

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

- 一 手當金ヲ分ツテ吊祭料救助料療治料ノ三種トス
- 一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス
- 一 吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス
- 一 救助料ヲ分ツテ二等トス
- 一 一等 俸給五箇月分日給百五十日分

二等 俸給三箇月分日給九十日分

- 一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルハ二等給助料ヲ給ス
- 一 療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

▲内務訓令第五九八號 明治十九年八月十九日

傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等へ手當金給與ノ儀ハ左ノ手續ニ依リ支給ス可シ

- 一 官吏準官吏ハ本年七月第二十三號閣令ニ依リ廳府縣ノ定額經費内ヨリ支給シ直ニ内務大臣へ報告ス可シ

但高等官ニ係ルモノハ其都度具申スヘシ

- 一 該閣令ハ恩給金及一時賜金ノ法ニ拘ハラス特ニ其手當金ヲ支給スルモノトス
- 一 巡查看守ハ明治十五年七月第四十一號公達巡查看守給助例ニ依リ巡查ハ警察費ヨリ看守ハ監獄費ヨリ支給シ其感染死ニ至ラサル者ハ該閣令ニ依リ二等給助料ヲ支給シ直ニ内務大臣ニ報告スヘシ

但該給助例實施以前ニ在テ未タ支給セサル者ハ明治八年第三號公達ニ依リ巡查ハ警察費看守ハ監獄費ヨリ支給ス可シ

- 一 該閣令以前ニ係ル者ニシテ給與未濟ノモノハ此手續ニ據リ具申スヘシ
- 一 附醫師檢疫掛看護夫人夫等ハ總テ明治十年十二月第八十九號公達ニヨリ地方

稅中衛生費若クハ身分所屬ノ地方費ヨリ適宜支給ス可シ

▲檢甲第七五號 明治十九年八月廿七日

傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタル者等へ手當金給與ノ義ニ付本年訓第五九八號ヲ以テ訓令有之候ニ付テハ該訓令ニ依リ具申相成モノ并ニ給與濟御報告ノモノハ左ノ廉々御附記相成度此段及御通知候也

追テ訓令第一項中廳府縣ノ定額經費内ヨリ支給シ云々ト有之候處右廳府縣ノ定額經費トハ官吏準官吏身分所屬ノ經費ヨリ支給スル義ニ有之候條右様御了知相成度爲念此段申添候也

- 一 傳染病豫防檢疫等ノ職務ヲ命シタル辭令書ノ寫
- 但辭令書ヲ附セサルモ當然其職務ニ從事セシモノアルトキハ其証左トナルヘキモノ

- 一 傳染セント認ムル場所并ニ發病ノ狀況年月日(六種傳染物種別ヲ記ス)及全治死亡等ノ年月日
- 一 相當醫師ノ診斷書
- 一 該死者ニ依リ扶助ヲ受クヘキ遺族ノ氏名年齢

附 錄 警察及監獄備員職務上死傷セシ者吊

祭扶助療治料支給方

▲内務訓令第四十二號 明治廿年九月七日

廳府縣(業治監 假留監)

警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照準支給スヘシ

但警察備ハ警察費監獄備ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

附 錄 一般人民吊祭扶助療治料支給方及自家盜難救恤

▲達第六十七號 明治十五年十二月十二日

警視廳(東京府沖繩南館札 櫻根四縣ヲ除ク)

一般人民ニシテ巡查同様ノ働チナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨相達候事

吊祭扶助療治料

一 吊祭料

重傷死ニ至ル者ヘ金三十圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戸長役場ニ付シ便宜處分セシム

一 遺族扶助料

父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ナセシモノヘ金五十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 傷痍扶助料

一等傷(修身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者)ヘ金六十圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二等傷(修身不具トナルモ自用ヲ辨シ得ル者)ヘ金十圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 療治料

傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

▲内務省乙第十七號 明治十一年二月廿八日

東京警視本署  
府縣(東京府ヲ除ク)

一般人民時機不得止場合ニ於テ身ノ危難ヲ不顧巡查同様ノ働チナシ死傷ノ者吊祭及扶助料給與方ニ付明治八年太政官第百八十六號御達ノ趣有之候處自家ノ財難ニ罹リ死傷スル者ハ給與ノ限ニアラス候條此旨爲心得相達候事

但特ニ悠諒ノ事情アツテ救恤セサルヲ得サルモノハ其都度事實具狀可伺出候事

附 錄 官吏恩給法

▲法律第四十三號 明治二十三年六月二十日

官吏恩給法

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年齢六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

二 傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

三 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十

五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス  
交際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痕疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二ケ年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス  
明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲グル

者退官スル片ハ明治四年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲グル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月

四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲グル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一 年齢二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區書記ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數

四 御用掛雇等外出仕勤仕ノ月數

五 第八條第二ニ掲グル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ  
 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

第十四條 政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス  
 商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏并ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷殘ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限り退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ修身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得左ノ事件ニ關シハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷殘疾病ノ原因及其輕重

一 職務ニ堪ユルト否ラサルコト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年內ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス  
 従前ノ命令ニシテ此法律ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

附 錄 官吏恩給法施行規則

▲閣令第三號 明治廿三年七月二日

官吏恩給法施行規則左ノ通定ム

官吏恩給法施行規則

第一章 恩給ノ請求



- 第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ
- 第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
- 一 在官中履歷書
  - 二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書
- 但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス
- 第四條 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ
- 一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
  - 二 醫師ノ診斷證書
- 第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

- 各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ
- 第二章 恩給ノ支給
- 第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三個月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス
- 第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ
- 第九條 恩給ヲ受クル者他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ從來ノ居住地ノ地方廳及轉籍若クハ寄留地ノ地方廳ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏省ニ通知シ各廳間互ニ其者ニ係ル恩給支給方ノ受繼ヲ爲スヘシ
- 大藏省ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ内閣恩給局ニ通知スヘシ
- 第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル
  - 二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム
  - 三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム
- 第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一個月分ニ相當スル金額トス
- 第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ
- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
  - 第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
  - 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
  - 第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
  - 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二  
傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第三章 恩給ノ停止

- 第十三條 恩給ヲ受ケル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ
- 第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日（解任ノトキハ支給ヲ終リタル日）ヲ付記スヘシ
- 第十五條 恩給ヲ受ケル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受ケヘキ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ
- 地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ハ内閣恩給局ニ送付スヘシ
- 第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又復給セシムヘシ

地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜 則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ  
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルルハ其實ヲ調査シ亡失ノ事ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受ケル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其實事ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲ス

ヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

附 錄 官吏遺族扶助法

▲法律第四十四號 明治二十三年六月廿日

官吏遺族扶助法

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス

- 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
- 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
- 三 恩給ヲ受ケル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルルハ現ニ受ケル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ  
政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ノ俸給及兼官ニ依テ受ケル加俸ニ對シテハ第二條ノ納金ヲ要セス

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ビ勤務ニ従事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受ケル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受ケルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸

籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受ケヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時間限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受ケヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受ケルモノノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢廿歳ニ滿チタル翌月
- 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ廢疾若クハ不具ニシテ營業ヲ營ムコト能ハス他

ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラ

レタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其

遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス

但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大

臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以

内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行

政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル

者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

### 附 錄 官吏遺族扶助法施行規則

▲閣令第四號 明治廿三年七月二日

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ム

#### 官吏遺族扶助法施行規則

##### 第一章 扶助料ノ請求

第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬  
應ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助  
金請求ノ證ト爲スヘシ

第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請  
求ノ證ト爲スヘシ

第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實  
ヲ查覈シ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診  
察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之  
ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其事由ヲ詳記シ癡疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アレハ其後親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲グル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ査覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徵收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲グル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徵收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一節三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ満チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

雜 則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

- 二 恩給證書ヲ亡シタルトキ
  - 三 改氏名又ハ他府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキ
- 第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

附 錄 判任以上文官退官賜金給與方

▲勅令第九十八號 明治廿三年六月二十日

文官判任官以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス

本令施行前ニ滿年賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲グル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス

恩給ヲ受クル者竝自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治廿三年七月一日ヨリ施行ス

附 錄 官吏遺族扶助法納金收入規則

▲勅令第二百二十五號 明治廿三年七月十二日

官吏遺族扶助法納金收入規則

- 第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給支拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ
- 第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直チニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
- 前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
- 第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
- 免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納入ニ於テ差引スヘシ

附 錄 文官傷痍疾病等差例

▲第十六號 明治十八年三月二十七日

官省院廳府縣

官吏恩給令附則第五條傷痍疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得

此旨相達候事

文官傷疾疾病等差例

公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條ニ掲クル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概子左ノ如シ

第一條 偏眼ヲ盲スルモノ全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ癱スル者ハ第四項トス

第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス

第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼昏昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス

第五條 咀嚼言語ノ兩機能ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

第六條 咀嚼ノ用ヲ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス

第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス

第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項若クハ第五項トス

第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

項トス

第十條 言語ノ機能ヲ癱スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタルモノハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ癱管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第十二條 陽歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或ハ辜丸ヲ全失スル者ハ第三項トス

第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏辜丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス

第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨ル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全癱スル者ハ第一項トス

第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス

第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ癱スルモノモ全肢ノ用ヲ癱スルニ至ラサルモノハ第六項トス

第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ癱スル者ハ第五項トス

第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモノ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス



- 第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
- 第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス
- 第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス
- 第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
- 第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

第七節 判任官待罪書進達方

○内第十九號 明治十九年三月十五日

部 所 署

判任官ニシテ待罪書ヲ呈スル時ハ自今巡查待罪書体ニ倣ヒ前罰アルモノハ其要ヲ摘載シテ差出スヘシ又署長ニ於テハ其待罪書ニ特別ノ事情アラサレハ添書スルニ及ハス單ニ認印而已ニテ進達スヘシ此段内達候也

附 錄 官吏懲戒例

▲太政官第三十四號達 明治九年四月十四日 院省使廳府縣  
今般官吏懲戒例左ノ通相定候條此旨相達候事

官吏懲戒例

- 第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ
- 第二條 懲戒ノ法三種トス 第一 譴責 第二 罰俸 第三 免職
- 第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス
- 第四條 罰俸ハ一月分拾分ノ壹ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサル俸ヲ奪フ(十三年第四號達ヲ以テ本條改正)
- 俸ヲ追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス

第五條 懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニアラスシテ免職スル者ハ長官旨ヲ論シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣並警視廳判任官ハ其長官之レヲ懲戒ス

第八條 四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ奏任以上府縣官ノ叶議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條 府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルコトヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ內務卿ニ届出ヘシ

府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條 其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルコトヲ得ス

### 第八節 巡査懲罰具狀心得及廿年以前ニ加ヘタル

### 懲罰全免

○本甲第九十七號 明治十五年四月十三日

巡査雇懲罰具狀心得別冊ノ通相定候條此段相達候也

巡査雇懲罰具狀心得

第一條 巡査雇等職務上ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アリ待罪書ヲ徴スルニハ別紙

第一號書式ニ照シ正副二通ヲ出サシムヘシ若シ共犯アルモ連署セシムルヲ得ス

第二條 待罪書ハ自ラ規則違背又ハ怠慢失誤ナルコトヲ覺リ或ハ待罪スヘキヲ論サ

レタルヨリ三日以内ニ差出サスヘシ

第三條 規則違背又ハ怠慢失誤アル者ヲ取調フルハ警察署長自ラ之ヲ行ヒ相當ノ差

問アルニアラサレハ次席警部又ハ警部補ヘ譲ルヘカラス

第四條 警察署長ニアラサル警部補若クハ監督巡査ニ於テ其犯者ヲ認ムルトキ改正

シ得ヘキハ速ニ改正セシメ後其始末ヲ署長ニ申告スヘシ

第五條 懲罰具狀スルトキハ別紙第二號書式ニ照シ一件毎ニ其犯狀及ヒ處分ノ意

見テ記シ關係書類若クハ証憑物件アルトキハ之ヲ添付スヘシ

第六條 月俸十分一以上ノ罰金ヲ科セラレタル者ハ月賦徵收スルコトヲ得但シ月賦

金ハ完納ノ月ヲ除クノ外月俸十分一ニ下ルコトヲ得ス

第七條 懲罰金ヲ科セラレタルモノ免職ニ係ルトキハ之ヲ徴セスト雖モ完納以前他官署ニ轉任又ハ甲乙署へ交換セシトキハ一時ニ追徴シ其月賦追徴ニ係ルハ赴任ノ官署ニ通牒シ其官署ヲ經テ徴收スヘシ

第八條 懲罰金ハ其巡查雇在勤ノ警察署ニ於テ之ヲ徴シ分署諸ナルモ其分署ニ於テ徴收所屬警察署ニ送ルモ別紙第三號書式ニ照シ前月分其翌月五日迄ニ警察本署第四部へ納付スヘシ但シ月俸追徴ニ係ルモノハ其署ニ於テ積算數滿テ後納付スルモノトス(第四部ハ見)第九條 警察分署ニ於テハ其署長前各條ニ準據シ取調ヲ爲シ本屬警察署長ニ送致シ警察署長ハ本則第五條以下ノ例ニ照シテ管理スヘシ  
第一號書式

待罪書

一 明治何年何月何日何警察署(何分署)在勤中何所ニ於テ見張中睡眠セシ廉ヲ以テ罰金何程(呵責)申付ラル  
一 明治何年何月何日何警察署(何分署)在勤中官給ノ手帳ヲ遺失セシ廉ヲ以テ罰金何程(呵責)申付ラル  
一 何々云々  
一 是迄處罰セラレシコト無之此ノ項ヲ記スモハ前項々ヲ記スニ及ハス私儀何々云々其犯狀ヲ詳記ス謹テ何分ノ御處分ヲ奉仰候也(十六年本甲第六十九號ヲ以テ(奉)ノ一字ヲ追加ス)

何警察署(何分署)詰

巡查(雇)月俸何圓(日給何程)

何 誰 印

大阪府知事宛

明治何年何月何日  
一 本書中挿入削除等ノ文字アルトキハ必ス其部ニ認印スヘシ  
一 用紙ハ美濃白紙ヲ用ヒ字体ハ楷行書ニ限ルヘシ  
第二號書式

巡查(雇)懲罰具狀

何警察署(何分署)詰

巡查(雇) 何 誰 印

右何々所爲有之別紙待罪書差出候ニ付事實取調ルニ何々其模様ヲ略記スト認定候條(免職)(罰金)(呵責)御處分相成度此段具狀候也

何警察署長

明治何年何月何日

官 氏 名 印

大阪府警部長宛(十六年本甲第六十九號ヲ以テ宛名ヲ改正ス)

一 共犯アリ既ニ免職又ハ免職具申中ナルハ其旨本文中へ記入スヘシ

第三號書式

記

一金何拾何圓何拾何錢

内

金何圓何拾何錢何厘

金何圓何拾何錢何厘

金何圓何拾何錢何厘

右明治何年何月分巡查(雇)懲罰金納付候也

何警察署長

明治何年何月何日

官 氏

名 印

警察本署

第四部宛

(参考)

内務省伺 明治十二年五月十九日

雇ニシテ警察ノ職務ニ従事スル者規則違背及ヒ怠慢失誤アルハ巡查同一ノ處分不致テハ取扱上不都合ノ儀不尠候ニ付月給卅圓未滿ニシテ右職務ニ従事スル者ニ限リ御省明治九年乙第九拾貳號御達巡查懲罰例ニ依リ處分致度此段相伺候也

(指令)同年六月六日

書面明治九年六月八日太政官無號達ノ通り心得ヘシ

●訓示第一號 明治二十年一月四日

警察本部

部下ヲ御スル者ハ之ヲ誘フテ奮勵セシムルノ心ナカルヘカラス部下亦自ラ奮テ精勤スルノ心ナカルヘカラス從來巡查懲罰ノ多キハ兩者此心ニ乏キニ由ルモノ多シ依テ既往巡查ニ加ヘタル懲罰ヲ全免シ將來自ラ新ニスルヲ許ス宜ク此意ヲ示シテ自今一屬奮勵セシムヘシ

○訓示第一號 明治二十年一月四日

課 署 第三〇課  
ヲ除ク

凡ソ部下ヲ監督スル者ハ之ヲ誘掖シテ職務ニ奮勵セシムルノ心ナカルヘカラス唯過失ヲ摘發シ懲罰ニ付スルヲ以テ勉メタリト爲ストキハ過失ハ益々出テ、極リナカルヘシ何トナレハ斯ノ如キ者ハ只過失ヲ認ムレハ以テ足レリト爲シ適々之ヲ認ムルアルヤ直ニ摘發シテ處分ニ付スレハ盡シタリト爲シ毫モ懲罰ノ目的タル將來ノ悔改ヲ期スルコトヲ爲サス故ニ部下ニ立ツ者モ其眼前ニ過失ヲ起サ、レハ可ナリト爲シ而テ其一度懲罰ヲ受クルヤ漸ク失望シテ漸ク放擲ノ心ヲ生スルニ至ル茲ニ至テ屢々懲罰ニ付スルノ止ヲ得サルニ至ルヘシ之レ豈ニ監督ノ法ヲ得タリトセンヤ之ニ反シテ常ニ誘掖薰陶スルノ心ヲ以テ主ト爲ストキハ益々感激奮勵シテ過失ヲ見ント欲スルモ得サルニ至ルヘシ抑モ過失ナカラシメントスル心ト懲罰ニ漏レサラシメントスル

心トハ其結果大ニ懸隔スルモノナリ監督者タル者宜ク此別ヲ銘セサルヘカラス且夫  
 レ懲罰ノ目的ハ失誤者ヲシテ將來ニ悛メシメ他人ヲシテ之ニ倣ハサシムルニアリ  
 加辱ハ懲罰ノ目的ニアラスシテ手段ノミ故ニ其目的ヲ達スレハ手段ハ之ヲ盡サ、ル  
 コトアルモ敢テ不可ナシ只要スラクハ此手段必要ノ場合ニ於テ尙緩漫ニ付スルナキ  
 ニアルノミ監督者又此意ヲ記セサルヘカラス  
 凡職ヲ奉スル者ハ自ラ勉ムルノ心ナカルヘカラス獨リ懲罰ヲ恐レテノミ勤ル者ハ却  
 テ懲罰ヲ受クルコト多カルヘシ何トナレハ斯ノ如キ者ハ只懲罰ヲ受ケサレハ充分ナ  
 リト爲シ心裡ニ勤勉ノ節操ナキカ故ニ不知不識失誤ヲ生シ易ク甚キニ至リテハ監督  
 者ノ眼前ニ於テハ奔走勉勵シ其眼前ヲ避クレハ又職務ヲ以テ念ト爲サス以テ得タリ  
 ト爲スヤ忽チ圖ラサルニ認識セラル、ニ至ル斯ノ如キ腐敗ノ心ヲ以テ豈ニ一口モ其  
 職ニ任ユヘケンヤ之ニ反シテ自ラ其心ヨリ勉ムル者ハ失誤ヲ生スルコトナク失誤ヲ  
 生セサレハ懲罰ヲ受クルコトナシ故ニ勤勉ノ範圍内ニハ懲罰ナシト云フヘシ又勤勉  
 ノ者ハ心ニ快ク常ニ樂テ勉ルヲ以テ益々精勤スルヲ得ヘキナリ茲ニ至テ初テ能ク其  
 職ヲ盡ス者ト云フヘキナリ  
 從來懲罰ヲ受クル者ノ數年々ニ多カリシハ飯スル處共ニ前述ノ意ニ留心セサルニ因  
 ルモノ多シ我長官ハ深ク之ヲ憂ラレ切ニ將來ノ注意ヲ起サシメンカ爲メ斷然前科ヲ  
 全免セラレタリ之レ決シテ偶然ニアラス各自宜ク心頭ニ銘シ苟モ我警察ニ事ヘタル

以上ハ俱ニ供ニ精勤シ艱難厭フナク辛苦意ト爲サス誓テ其職任ヲ完フシ此恩典ヲシ  
 テ徒爾ニ飯セシムルコトナキヲ要スヘシ

附 錄 巡查懲罰例

▲内務省乙第九十二號 明治九年八月五日 廳府縣(東京府ヲ除ク)

巡查懲罰例別紙ノ通改正候條此旨相達候事

- 第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審案シ俸給一ヶ月  
 百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム
- 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ恥カシムルニ係ル者ハ免職ス
- 第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス
- 第四條 凡罰金ハ毎月俸金ヲ控除シテ完納セシム  
 但月俸ノ三分一ヲ過クルコトヲ得ス
- 第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

第九節 繩夫小使懲罰

○本甲第二百三十九號 明治十五年七月十四日 各 署  
 各署詰繩夫小使等職務上過誤失錯アリテ懲罰スヘキ者ハ左ノ手續ニ從フ可シ此段及

通達候也

但水上署水夫ノ處分モ亦之ニ從フ可シ

一繩夫小使ニシテ職務上過誤失錯アルトキハ各警察署長ニ於テ譴責シ其職ニ堪ヘサルモノハ免職スヘシ

一前項ノ場合ニ於テ官物ヲ毀棄スル等官費修繕ス可キモノニ係レハ旨ヲ本署ニ具申シ其本人ヲシテ賠償セシム可キハ之ヲ專行ス可シ

### 第十九章 文 書

#### 第一節 府令施行期限並公布式

●甲第五十九號 明治十六年八月廿五日

常府布達ハ府廳ヨリ發付ノ後七日ヲ以テ施行期限トス

但布達中特ニ急施ヲ要シ即日ヨリ施行セシムル者及ヒ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタル者ハ本條ノ限ニアラス

●府令第五十五號 明治二十二年七月二十三日

本府府令訓令告示告諭ハ自今大阪府公報トス大阪朝日新聞大阪毎日新聞大阪日々新聞大阪新聞ニ登載スルヲ以テ公布式トス本令中廿五年府令第五號同第十號及第四十號ヲ以テ追加改正ハ皆修正ス

●廳達第二百二號

明治二十三年十二月二十七日

各部署

府令訓令告示告諭達及諸規則ノ類ハ部長署長認印ノ上參事官ノ合議ヲ經ヘシ

但シ部長署長ヘ委任ノ事項ニ係ルモノハ此限ニアラス(廿四年廳達第十九號以テ但書追加)

●廳達第五十八號

明治二十三年六月二十七日

警 察 部  
收 稅 部

職務章程改正ヲ要スルトキハ爾後知事官房ヘ合議スヘシ

### 附 錄 公文式

▲勅令第一號 明治十九年二月二十四日

#### 公文式

##### 第一 法律命令

第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ

内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條 法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日

ヲ記入シ主任大臣ト俱ニ之ニ副署ス其各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス(廿三年勅令第三百三十九號ヲ以テ改正)

第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ

委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス

第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス

第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス

第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月廿六日第十四號布達ニ依ル  
第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス  
島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

附 錄 布告布達到達日數

▲太政官布達第十四號 明治十六年五月二十六日

今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム  
(第十七號布告ハ勅令第一號ニ依リ消滅ス)

到 達 日 數

布告布達到達日數

和歌山縣	廣島縣	島根縣	富山縣	福井縣	山形縣	岩手縣	宮城縣	岐阜縣	山梨縣	愛知縣	椋木縣	千葉縣	埼玉縣	長崎縣	神奈川縣	京都府
六	七	八	六	八	五	七	五	四	二	三	二	即	即	十	即	四
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
德島縣	山口縣	岡山縣	鳥取縣	石川縣	秋田縣	青森縣	福島縣	長野縣	滋賀縣	靜岡縣	三重縣	茨城縣	群馬縣	新潟縣	兵庫縣	大阪府
六	八	六	七	七	八	十	四	四	四	二	四	二	即	五	四	四
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

愛媛縣	福岡縣	佐賀縣	宮崎縣	高知縣	大分縣	熊本縣	鹿兒島縣
九	九	十一	十一	八	十一	十一	十二
日	日	日	日	日	日	日	日

▲閣令第二十二號 明治二十一年十二月廿二日  
官報到達日數奈良縣ハ大阪府ニ香川縣ハ愛媛縣ニ同シ

附錄 司法事務ニ關係スル廳府縣令報告ノ件

▲司法省訓令第二號 明治二十四年五月一日 (警視廳、北海道廳、府縣)  
廳府縣ニ於テ發布スル廳府縣令ハ其司法事務ニ關係スルモノニ限リ發布ノ都度當省ヘ報告シ且ツ其管内ニ在ル地方裁判所區裁判及ヒ其地ヲ管轄スル控訴院ヘ報告スヘシ 但明治十五年(四月)司法省丙第十五號達ハ廢止ス

第三節 警察部諸達記號文例及ヒ發翰記號

○明治二十三年十二月廿二日決議  
一 警達第何號  
○ 達書文例



警察署

又ハ 警察署 (某署ヲ除ク)

又ハ 市部警察署

又ハ 市部警察署 (某々署ヲ除ク)

某警察署

某警察署

又ハ 郡部警察署

又ハ 郡部警察署 (某々署ヲ除ク)

何々、スヘシ(又ハ左ノ通定ム左ノ通心得ヘシ、左ノ通改定スノ類)

年月日

何々(左ノ通云々ノ場合其左書ヲ爰ニ記ス) 警部長氏名

一内達第何號

(文例前項ニ倣フ此號ハ表面ノ規程ニ係ラサルモノニ用ユ)

一訓示第何號

(文例第一項ニ倣フ尤モ事柄ニ依リ警察署トアルヲ警察署長ト記スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ少シク結文ヲ變更ス例ヘハ何々スヘシトアルヲ何々セラルヘシト記スルノ類之ナリ)○此號ハ事務ノ方針若クハ職務上ノ心得向等ヲ特ニ

訓示スル場合ニ用ユ)

一部達第何號

又ハ 各課

(文例第一項ニ同シ)○此號ハ特ニ警察部各課ニ達スル場合ニ用ユ)

一 一時一二ノ警察署ニ格段ノ事項ヲ下達スル場合ハ第一項ノ文例ニ準シ而テ番號ヲ須キス

一 警察命令第 號 (廿五年六月十六日追加)

此號ハ一個人又ハ數人ニ或ル爲不爲ヲ書面ヲ以テ命令スル場合ニ用フル者トス

○部達第三號 明治廿二年十二月廿七日 各課

發翰記號左ノ通改正シ明治廿三年一月一日ヨリ實施ス

但司法事務ニ關スル記號ハ別ニ定ムル所ニ依ル

何(各課頭字)甲第何號 本部名又ハ本部長名ノモノニ用ユ

何(全上) 乙第何號 課名又ハ課長名ノモノニ用ユ

何(全上) 調第何號 調度事務ニ關スルモノニ用ユ(廿四年部達第一號ヲ以テ追加)

何(全上) 親第何號 一般機密ヲ要スルモノニ用ユ

第四節 諸令達配布員數

●廳達第四號 明治廿一年一月十九日 各部  
 勅令閣省令告示及本府令告示告諭等從來各別ニ印刷配付候處自今相廢シ大阪府公報  
 ナ發行シ之ヲ願フ

○本達第五十二號 明治廿三年六月六日 警察署  
 諸令達示配付員數左ノ通改正ス

種別	東西南北警察署	其他警察署	分署
應達、本達	部 參	部 貳	部 壹
大阪府公報其他	部 壹	部 壹	部 壹

一欠號ヲ証スル爲メ大阪府公報ハ每翌月本部達示ハ翌年一月ニ目錄ヲ配付ス  
 (本達ハ警達ト改正ス)

### 第五節 文書調理心得

○警達第二十四號 明治廿四年四月十六日 警察署  
 文書調理心得左ノ通之ヲ定ム

#### 文書調理心得

第一條 凡ソ警察ニ關スル文書取扱ハ警察事務取扱順序及特ニ規定シタルモノ、外  
 尙ホ此心得ニ準據スヘシ

第二條 凡ソ文書及ヒ口述願届ハ左ノ簿冊ニ番號並ニ事件ノ要領ヲ摘記シ其事件完  
 結セシトキハ尙ホ其要領月日書類ノ所在ヲ記入シ置クヘシ

- 一 (官署、公署)文書受附簿
- 二 (人民)願届受附簿

第三條 定例ノ書式アル願届書ニシテ字句文体ニ多少ノ差異アリト雖モ注意全体ニ  
 大差ナキモノハ便宜受理スヘキモノトス

第四條 左ノ文書ハ副本ヲ徴セス但第一類ハ名簿又ハ臺帳ニ第二類ハ願届摘要録ニ  
 依リ處分スヘシ

鑑札ヲ付與スヘキモノハ指令書ヲ交付セス

#### 第一類

- 一 宿屋營業願
- 一 彫刻業願
- 一 飲料水營業願
- 一 質屋營業願届
- 一 人力車營業願届
- 一 雇人口入營業願
- 一 氷雪營業願
- 一 古物商營業願届 (但組合規約ニ係ル届ハ除ク)
- 一 屑商營業願届
- 一 馬車營業願届

- 一 銃獵及威銃願
- 一 諸營業取締人選舉屆
- 一 航運營業願
- 一 舩船營業願
- 一 屠畜營業願
- 一 貸座敷娼妓紹介人稼業願及娼妓休業屆
- 一 淀川通船營業願
- 一 荷客仲次業願

第二類

- 一 演劇寄席遊技場觀物其他諸興行願屆(藝團藝人氏名木戸錢仕組帳等アル者ハ別ニ之ヲ保存ス)
- 一 街路及水路願
- 一 古物商露店願
- 一 屎尿糞船塢及同駐車塢願
- 一 火藥買入及荷造運搬願
- 一 改葬合葬願及碑表建設願(碑文ハ別ニ之ヲ保存ス)
- 一 飲食物取締規則第四條ノ屆
- 一 肥料貯藏場外差置願
- 一 娼妓他行願
- 一 烟火打揚願

第五條 主任者文書ヲ受ケタルトキハ署長ノ指示ニ依リ處分按テ具シ又名簿臺帳若クハ摘要錄ニ依リ處分スヘキモノハ番號月日願屆人ノ住所氏名事件ノ要領及ヒ指令按テ各帳簿ニ登記シ署長ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

第六條 巡查及雇ハ主任トシテ文書ヲ起草スルコトヲ得ス

第七條 第四條ノ文書ニシテ他日照願ヲ要スヘキモノハ名簿臺帳又ハ摘要錄ニ備考ヲ付記シ復命書圖面其他付屬書類アルトキハ名簿臺帳摘要錄ト同一ノ番號ヲ付記

シ別ニ編綴シ置クヘシ

第八條 凡ソ願屆ニ付スヘキ指令ハ左ノ例ニ依ルヘシ若シ願屆書ニ指令スヘキ餘白ナキ時ハ別ニ野紙ニ記載シテ本紙ニ添付シ符印ヲ以テ契印スヘシ

(甲)書面之趣(許)(認)可ス  
但何々へ届出(又ハ何々)スヘシ

年

月

日

署

名

印

(乙)書面之趣(許)(認)可シ左ノ記號ヲ付與ス

何(署ノ頭字)第何號

年

月

日

署

名

印

第九條 稟議具申報告ノ類ハ初行ニ事件ノ要領ヲ摘記シ其初行結文ハ左ノ例ニ依ルヘシ

何々ノ義ニ付稟議

此段稟議候也

何々ノ義ニ付具申

此段具申候也

何々ノ義ニ付報告

此段報告候也

第十條 官署公署往復文書ノ結文ハ左ノ例ニ依ルヘシ

此段及御照會候也

此段及御依頼候也

此段及御通知候也

此段申進候也

此段及御回答候也  
云々相成候也

此段申添候也  
云々有之度候也

第十一條 凡ソ官署ニ對スル文書ハ署長ノ名ヲ署シ當府警察部長課署長等不在ノ時  
ト雖モ代理又ハ兼務ノ者ナキトキハ双方部課署長ノ名ヲ用ユヘシ

第十二條 官署公署ニ對シ文書ヲ發遣スルトキハ文書發遣番號簿ニ記載シ其種類ニ  
從ヒ左ノ記號ヲ付シ指令回答等アリタル片ハ遺漏ナク其旨該簿ニ記入シ置クヘシ

一何(署ノ頭字ト冠ス但分署ハ警察署頭字ノ下)第何號(稟議具申報  
ニ其署ノ頭字ヲ用ユヘシ以下之ニ準ス)告等ニ用ユ

一何往第何號 (行政及司法事務ニ用ユ)

一何調第何號 (調度事務ニ用ユ)

一何親第何號 (親展書ニ用ユ)

第十三條 諸願届其他ノ文書ヲ官署公署へ發遣スルニ當リ別ニ意見ヲ要セサルモノ  
ハ添紙ヲ付セス送付書若クハ回答書ノ代用印ヲ本書表面上欄外へ押捺シ番號年月  
日宛名並ニ署名ヲ記スヘシ

第十四條 親展書ハ署長之ヲ手記シ其事稍輕易ニ屬スルモノハ特ニ警部ヲ指定シ之  
ヲ取扱ハシムルコトヲ得事重要ナラス又ハ特ニ機密ヲ要セサルモノハ猥リニ親展  
書トナスヘカラス

第十五條 同時ニ同一ノ官署若クハ公署へ發遣スヘキ書類ニ通以上アルトキハ之レ

ヲ合封スヘシ若シ數通中書留別配達等ノ封書アレハ之レニ合封シ總テ書留若クハ  
別配達トナスヘシ

第十六條 當府警察部ニ發送スル文書ニシテ直ニ警察部長ノ開封ヲ要スルモノ、外  
總テ主務課長又ハ主務課宛ニシ之レヲ警察部宛一封ニ合封スヘシ

第十七條 人民ヲ召喚セントスル片ハ喚徴簿ニ記載ノ署長ノ認印ヲ受ケ其遠隔ノ地ニ  
在ル者ノ豫メ到着日時ヲ測リ相當ノ猶豫ヲ與フヘシ但召喚狀記載方ハ左ノ例ニ依ルヘシ  
何々ノ件 主任檢印(印)

何月何日午(前後)何時出頭アル可シ

代人ニテモ差支ナシ

年 月 日

住所氏名殿又ハ執事

署 名 署 印

出頭ノ節此書面持參セラルヘシ

第十八條 郵便ニ據リ差出シタル文書及ヒ部内遠隔地ニ送付スヘキ指令書ハ受持巡  
査派出所ヨリ交付セシメ又ハ差出人所轄町村役場へ便宜交付方ヲ囑托スヘシ

第十九條 他ノ官署公署ト往復中ノ文書ハ主任ノ手元ニ存シ置キ一件完結ノ上假リ  
ニ編冊スヘシ

第二十條 一件ニシテ數種目ニ渉ル文書ハ其重ナル部類ニ併綴スヘシ

第二十一條 數回往復セシ書類ハ初メニ結局ノ文書ヲ置キ連屬ノ書類ハ以下順序ヲ正シ置クヘシ

第二十二條 諸令達其他必要ノ書類ハ便宜ノ方法ヲ以テ署員周知ノ手續ヲ爲シ一週日ヲ過クルモノハ各種目ニ從ヒ假リニ編冊スヘシ

第二十三條 諸令達中改廢追加等アルルハ其時々遺漏ナク補正シ置クヘシ

第二十四條 各種ノ簿冊ハ別紙雛形ニ依リ毎年一月前年分ヲ改綴シテ整理保存スヘシ但法令全書大阪府公報ニ限リ西洋形本綴トス

第二十五條 簿冊ハ別紙種目ニ從ヒ分類調製スヘシ便宜ニ依リ數目ヲ合スルハ妨ケナシト雖モ若シ止ムヲ得ス之ヲ増加セントスルルハ其都度警察部ニ報告スヘシ但日誌遞付録諸規則類纂通知簿書綴其他參考簿冊ノ類ハ便宜調製スルヲ得又各種目中其署ニ關係ナキモノハ固ヨリ調製ヲ要セス

第二十六條 諸令達其他必要ノ簿冊ニハ必ス索引ヲ付シ一目瞭然タラシムルヲ要ス

第二十七條 簿冊ハ常ニ蟲鼠雨濕ノ損傷ナキニ注意シ毎年夏期ニ一回之ヲ曝シ簿書目錄ト對照点檢スヘシ

第二十八條 簿冊ノ保存ハ別紙ニ定ムル期限ヲ經過ノ後成規ニ從ヒ截斷ノ賣却スル者トス

第二十九條 從來保存ノ簿冊ニシテ書目適當ナラサルモノト雖モ其實同種類ノ者ハ此心得ニ準シテ取扱フヘシ

官署公署受附簿記載例					
出所	受附番號月	出所	受附番號月	出所	受附番號月
何町村役場	日	何警察署	日	何第何號	日
件名	第	件名	第	件名	第
		何々ノ回答ノ件 <sup>主任</sup> ①		何某身元取調ノ件 <sup>主任</sup> ①	
分處要領	號	分處要領	號	分處要領	號
	月	何月何日處分 <sup>書記</sup> ①	月	何月何日何某へ取調ヲ命ス	月
存所	日	存所	日	存所	日
		何々 <sup>書記</sup> ①		何々ニ綴ル <sup>書記</sup> ①	
				何月何日回答濟 <sup>書記</sup> ①	

(用紙半紙)

文書調理心得

人・民願届摘録記載例			
備考	署長 願届要領	備考	署長 願届要領
	何所 街燈建設 圖面並復命書ハ 何々ニ綴ル		自何所至何所 馬車通行留 日限自何月何日 至何月何日
	主 許否要領		主 許否要領
	許可セス		許可
住所氏名		住所氏名	
何郡區町村屋敷 何 某		何郡區町村屋敷 何 某	
許否番號月日	第 號 月 日	許否番號月日	第 號 月 日
書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日
書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日

四百四十七

(用紙半紙)

文書調理心得

人・民受附簿記載例			
備考	出所 何町村 何某	備考	出所 何町村 何某
	件名		件名 遺失物届 主任 書記
	分處要領		分處要領 何々 書記
	存所		存所 何々ニ綴ル 書記
受附番號月日	第 號 月 日	受附番號月日	第 號 月 日
書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日
書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日	書記 分處日

四百四十六

受附簿用紙

摘要録ニ依  
リ處分シ書  
類ハ本人ヘ  
下附ス  
書記







文書發翰番號簿用紙

發翰番號	發翰月日	發送先署名	發送署名	發翰要領	主任印	書記印	備考	備考	備考	備考	備考	備考

喚徵簿記載例

長 署 領要徵喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徵喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徵喚 何々ノ件	何月何日午前何時出頭 <small>主任檢印</small>	名氏所住	月 日發狀	長 署 領要徵喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徵喚	月 日午 時出頭	名氏所住	月 日發狀	長 署 領要徵喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徵喚 何々ノ件	何月何日發狀 <small>書記檢印</small>

(用紙半紙)

喚徴簿用紙

長 署 領要徴喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徴喚	月 日午 時出頭	長 署 領要徴喚	月 日午 時出頭
名氏所住	月 日發狀	名氏所住	月 日發狀	名氏所住	月 日發狀

送附書代用印

甲	乙	甲	乙
何々第何號 官署公署 御中	何々第何號照會 何々第何號回答 官署公署 御中	何々第何號 府縣署長 官氏名殿	何々第何號照會 何々第何號回答 府縣署長 官氏名殿
明治何年何月何日 大阪府何警察署 署印	明治廿何年何月何日付 大阪府何警察署 署印	明治何年何月何日 大阪府何警察署長 官氏名 官印	明治廿何年何月何日付 大阪府何警察署長 官氏名 官印
曲尺 幅五分	曲尺 幅七分	曲尺 幅七分	曲尺 幅九分

回答送附書代用印



簿冊表書記載例

明治何年分	
何々編冊(又ハ何々簿)	
永久保存(又ハ)至明治何年(何月)何々年間保存	
署印	

簿冊種目及保存期限

第一類 諸令達

- 一官報編冊
  - 一法令全書
  - 一大阪府公報
  - 一廳達編冊
  - 一警達編冊
  - 一警察部内達訓示編冊
  - 一大阪府警察指令錄編冊
  - 一大阪市條規編冊
  - 一關省内訓令示通牒編冊
- 第二類 甲帳簿
- 一受附簿
  - 一文書發翰番號簿
  - 一願屆摘要錄
  - 一喚徵簿
  - 一風俗照顧錄

無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	拾	拾	拾	拾	壹	無
期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	年	年	年	年	年	期
																	保存期限

一 電話通信錄	壹
一 消防機械調查簿	無
一 烟火製造并販賣者名簿	無
一 新聞紙雜誌(發賣所發賣人)名簿	無
一 銃獵免許臺帳	無
一 民有銃砲原簿	無
一 免許商銃砲原簿	無
一 免許銃製造調查簿	無
一 火藥營業者所持高根簿	無
一 威銃免許臺帳	無
一 雇人口入營業者名簿	無
一 彫刻營業者名簿	無
一 湯屋營業者名簿	無
一 飲料水營業者名簿	無
一 水雪營業者名簿	無
一 宿屋營業者名簿	無
一 宿屋雇人名簿	無

一 宿屋營業照顧名簿	無
一 人力車營業者名簿	無
一 人力車車體臺帳	無
一 人力車轆子名簿	無
一 人力車營業照顧錄	無
一 乘合馬車營業者馱者馬丁名簿	無
一 公設人力車駐車場臺帳	無
一 私設(人力車馬車)駐車場臺帳	無
一 諸製造場名簿	無
一 牛乳(搾取場、販賣人、配達人)名簿	無
一 屠宰場、屠畜營業人名簿	無
一 屠殺人、獸肉販賣人名簿	無
一 拾得物根帳	五
一 揭示報告簿	壹
一 拾得金日計簿	五
一 違警罪事件簿	貳
一 監視人名簿	拾
一 監視人送致名簿	拾

一 臨監根帳	五
一 犯罪受附簿	無
一 犯罪名簿	無
一 令狀名簿	壹
一 逮捕狀謄寫簿	參拾
一 留置人名簿	壹
一 勾留換刑執行簿	拾
一 留置人所持金品領置簿	拾
一 留置人賄簿	無
一 現金受拂簿	無
一 日記簿	無
一 原簿	無
一 警察費內譯簿	無
一 雜收入金口別簿	無
一 備品原簿	無
一 財產原簿	無
一 收入官吏收入簿	無

一 收入官吏出納簿	無
一 月給日給渡原簿	貳
一 消耗品請求簿	貳
一 消耗品交付簿	貳
一 備品交付証印簿	貳
一 警部諸費內譯簿	無
一 臨時寄托口別簿	五
一 假出繰替類別簿	五
一 金錢日計表	無
一 金錢預々帳	無
一 金錢受取帳	無
一 需用品購求稟議簿	拾
一 消耗品受拂簿	拾
一 備品受拂簿	拾
一 服具受渡簿	拾
一 保証金口別簿	拾
一 郵便物發遺簿	貳

- 一 郵便稅受拂簿
- 一 六傳染病者名簿
- 一 肥料貯藏所原簿
- 一 諸製造所名簿
- 一 辭令原簿
- 一 死畜解剖者名簿
- 一 品觸配付証印簿
- 一 墓地及火葬場明細簿
- 一 事故報告簿
- 一 警察雇名簿
- 一 巡查非常召集票插入簿
- 一 管内充員名簿
- 一 巡查(被服屬具)番號簿
- 一 署長口達存記簿
- 一 乞丐取扱簿
- 一 戶口取調巡查名簿
- 一 署員宿所簿

無 無 參 無 無 無 無 無 壹 無 拾 無 無 無 參 貳  
 期 期 年 期 期 期 期 期 年 期 年 期 期 期 年 年

第二類 乙帳簿 水上署專屬

- 一 蒸氣船籍簿
- 一 風帆船籍簿
- 一 船舶名簿
- 一 船艇臺帳
- 一 艇船番號錄
- 一 航運營業者名簿
- 一 荷客仲次營業者名簿
- 一 荷客仲次營業者名簿索引
- 一 荷客仲次營業者雇人番號錄
- 一 荷客仲次營業者雇人番號錄索引
- 一 淀川通船營業者名簿
- 一 淀川通船檢查報告簿
- 一 西洋形造船所名簿
- 一 船夫名簿
- 一 船燈監查報告臺帳
- 一 不登簿船定期檢查原簿

無 無 無 無 拾 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 無 保  
 期 期 期 期 年 期 期 期 期 期 期 期 期 期 期 存 期 限

- 一 川中使用臺帳
- 一 漂流物領置簿
- 第三類 甲編冊物
  - 一 稟議具申報告及指令書類編冊
  - 一 官民賞與上申書編冊
  - 一 管內外往復編冊
  - 一 當府警察課署往復編冊
  - 一 機密書類編冊
  - 一 署長會議決議錄編冊
  - 一 諸會議々事錄
  - 一 分署長稟議書編冊
  - 一 警察日報編冊
  - 一 警察日報附錄編冊
  - 一 警察(月年)報編冊
  - 一 盜難及犯罪捕拿報告書編冊
  - 一 諸表編冊
  - 一 警察區畫表編冊

無 無 無 無 貳 拾 拾 拾 無 貳 拾 拾 參 無 保 無 無  
 期 期 期 期 年 年 年 年 期 拾 年 年 年 期 存 期 期  
 期 期 期 期 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年

- 一 消防關係書類編冊
- 一 宿屋營業書類編冊
- 一 人力車營業書類編冊
- 一 古物商營業書類編冊
- 一 質屋營業書類編冊
- 一 屠商營業書類編冊
- 一 雇人口入營業書類編冊
- 一 湯屋營業書類編冊
- 一 彫刻營業書類編冊
- 一 氷雪營業書類編冊
- 一 諸興業書類編冊
- 一 飲料水營業書類編冊
- 一 牛乳營業書類編冊
- 一 屠畜及獸肉販賣營業書類編冊
- 一 貸座敷、娼妓業書類編冊
- 一 紹介人
- 一 投宿屆書編冊
- 一 下宿屆書編冊

貳 壹 拾 拾 拾 壹 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 參  
 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年

- 一 遊客人名表編冊
- 一 囚人面會願書編冊
- 一 囚人差入物願書編冊
- 一 銃砲火藥關係書類編冊
- 一 人民諸願伺屆書類編冊
- 一 願屆摘要錄及附屬書類編冊
- 一 行政諸請書類編冊
- 一 署員諸願屆書類編冊
- 一 待罪及手續編冊
- 一 品觸書類編冊
- 一 演說會書類編冊
- 一 諸報告書類編冊
- 一 遺失屆編冊
- 一 遺失物處分濟書類編冊
- 一 公賣金官沒金仕譯書類編冊
- 一 違警罪公判書類編冊
- 一 檢視書類編冊

壹壹壹壹壹拾拾拾拾拾壹壹壹  
拾貳五五五貳貳拾貳貳拾拾拾  
年年年年年年年年年年年年年年

- 一 監視書類編冊
- 一 換刑執行書類編冊
- 一 紛失屆編冊
- 一 犯罪一件書類編冊
- 一 告訴發盜難屆編冊
- 一 司法事件往復書類編冊
- 一 司法事件雜書類編冊
- 一 金錢收支証編冊
- 一 金錢領收証原紙編冊
- 一 金錢支拂切符原紙編冊
- 一 巡查臨時勤務錄
- 一 巡查身分一覽表
- 一 轉免(巡查身分一覽表廢名簿)編冊
- 一 巡查反則申告書
- 一 監視一覽表
- 一 巡查勤務一覽表
- 一 巡回一覽表

壹壹壹壹無壹參參參無壹貳拾貳參參五  
年年年年年期年年年年年期年年年年  
年年年年年年年年年年年年年年



- 一 川中使用臺帳
- 一 漂流物領置簿
- 一 第三類 甲編冊物
- 一 稟議具中報告及指令書類編冊
- 一 官民賞與上申書編冊
- 一 管内外往復編冊
- 一 常府警察課署往復編冊
- 一 機密書類編冊
- 一 署長會議決議錄編冊
- 一 諸會議々事錄
- 一 分署長稟議書編冊
- 一 警察日報編冊
- 一 警察日報附錄編冊
- 一 警察(月)報編冊
- 一 盜難及犯罪捕拿報告書編冊
- 一 諸表編冊
- 一 警察區畫表編冊

無 無 無 無 貳 拾 拾 拾 無 貳 拾 拾 參 無 保存 無 無  
 期 期 期 期 年 年 年 年 期 年 年 年 年 期 限 期 期

- 一 消防關係書類編冊
- 一 宿屋營業書類編冊
- 一 人力車營業書類編冊
- 一 古物商營業書類編冊
- 一 質屋營業書類編冊
- 一 屑商營業書類編冊
- 一 雇人口入營業書類編冊
- 一 湯屋營業書類編冊
- 一 彫刻營業書類編冊
- 一 氷雪營業書類編冊
- 一 諸興業書類編冊
- 一 飲料水營業書類編冊
- 一 牛乳營業書類編冊
- 一 屠畜及獸肉販賣營業書類編冊
- 一 貸座敷、娼妓營業書類編冊
- 一 紹介人營業書類編冊
- 一 投宿屆書編冊
- 一 下宿屆書編冊

貳 壹 拾 拾 拾 壹 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 拾 參  
 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年









●第一部長通牒 明治十九年十月廿二日

凡下班ノ者上班者ニ對シ敬意ヲ表スルハ元ヨリ當然ノ儀ニ候得共近來復命書其他ノ公文中濫リニ過分ノ尊稱ヲ用ヒ候向モ有之却テ敬禮ニ背キ不体裁ヲ免レサル義ニ付自今大凡左記ノ振合ヲ用ヒ候様夫々御内示置相成度此段及御通牒候也

知事ニ對スル公文 閣下

郡長及郡區長ニ對スル公文 貴下

巡查看守ノ署長及典獄 貴官

看守長ニ對スル公文

○調第二三一〇號 庶務課長ヨリ通牒 明治廿二年十月十六日

市行政事務ニ付區長ヨリ市參事會へ差出スヘキ文書宛名ノ義ニ付別紙ノ通區長へ通牒相成候條爲御心得及御通知候也

指揮命令ヲ請フモノ其他稟請上申又ハ届出等ヲ爲ストキ

右(大阪市參事會大阪府知事)ヲ宛テ差出スヘシ

一照會問答等ハ普通往答ヲ爲ストキ

右ハ事ノ輕重ニ依リ主務書記官又ハ主務課長又ハ主務課ヲ宛テ差出スヘシ

第十節 巡查進退ニ關スル書類記載方

○甲第八十號 明治十四年六月十六日

市郡各署

巡查黜陟ニ係ル上申及ヒ警察上賞與上申書ノ儀從來正副二通ツ、ニ有之候處自今一通ニ改正候間此段及通達候也

○本甲第二百十四號 明治十五年六月廿四日 市中各署

巡查ニ關スル書類ハ總テ月俸何圓ト記載可致之處記載無之取扱上差支候條以來必ス月俸何圓ト記載可致此段及通達候也

○本甲第二百八十八號 明治十五年九月十四日 各署

巡查雇等進退黜陟ノ上申書へハ其人ノ本籍ヲ記入可致旨明治十三年甲市郡第三十九號達ノ趣モ有之候處本籍記入セス上申候向モ往々有之不都合ノ義ニ候條向後該達ノ通本籍ハ勿論拜命並増給年月日等必ス記入可致此段更ニ及通達候也

第十一節 有期進達物心得方

○訓示第一號 明治十九年九月十八日 課 署 長

凡ソ訓令照會等ニ起因セル有期進達物又ハ回報等多クハ豫定ノ期限ニ迫リ若クハ之レヲ經過シタルノ後ニ於テ漸ク調査ニ著手シ或ハ期限後督促ヲ受クルニ當リ俄カニ實際取調ノ困難ヲ申出ルカ如キ又人民ヲ召喚スルニ當リテハ概子時限ヲ午前中ニ限レルガ如クナルモ一二時間ノ遲參ノ如キハ敢テ其事由ノ正否ヲ糺スコトナク又指定ノ時間ニ出頭スルモ一應ノ面接ヲモ爲サス故ナク一二時間ヲ待タシムル等官民共ニ

敢テ怪マザルガ如キハ從來其實例抄シトセス之レヲ要スルニ本部ト各署ノ關係ニ付テハ各署ノ進達始終期限ニ後ル、カ故ニ本部豫シメ數日ノ猶豫ヲ限外ニ目算シ各署亦其猶豫アラントテ測知シ以テ深ク期限ニ意ヲ注カサルカ如クナルヲ以テ偶々緊急缺クハカラサル場合ニ際シテハ種々速急ノ意ヲ含ム處ノ文字ヲ以テ期限ニ冠ラシメ特ニ事ノ急諸ニ付ス可ラサルヲ指示スルニ非ラスンハ決メ行ハレサルノ情況ニシテ彼ノ大阪市街杯ニ於テスル集會等ノ場合時間ニ冠スルニ正必ノ如キ種々ノ形容詞ヲ以テスルモ此實況ニ照セハ敢テ怪シムニ足ラサル也被召喚者ノ遲參ハ概子彼自ラノ怠慢ニ出ツルナルルモ出頭後故ナク待タシメラル、ノテ遂ニ一ノ習慣トナレルヨリ自ツカラ深ク指定時間ニ介意セサルノ結果タラサルヲ得サルヘシ蓋シ前顯ノ如キ習慣ハ畜ニ事務ノ敏捷ヲ妨ルノミナラス警察ノ威信ニ關スルモノ亦抄ナカラサルヲ以テ自今左書ノ主旨ニ依リ大ニ習風ヲ改ムルノ端緒ヲ開カントス此際一層趣向ヲ改良スルコトニ注意セラル可シ

一訓令達示照會等ノ類ニシテ期限ヲ指定シタル取調ヲ要スルニハ事實ノ緩急若手ノ難易ニ依リ其期限ノ取調上ニ差支ナキヤ否ヤ深ク實地ニ酌量シ可成充分ノ猶豫ヲ與フ可シ

一右等ノ命令照會ヲ受クルニ際シテハ先ツ限内完了シ得ラルヘキヤ否ヤヲ考究シ若シ指定ノ期限ニ結局ノ見込ナキモノハ日時ヲ期定シ直ニ相當ノ猶豫ヲ乞フヘシ他

官衙ノ照會囑托ノ類ニシテ期限ヲ定メ若クハ至急ノ取調ヲ要スルモノ亦全シ一定期又ハ臨時ニ係ル有期進達物ノ如キハ其都度一箇ノ簿冊ニ摘録シ課署長督責ノ照顧ニ供スヘシ

一人民ヲ召喚スニハ必スシモ時間ノ指定ヲ要セスト雖モ之レカ必要アルトキハ先ツ當日事務ノ順序ヲ考案シ午前午後ノ區別ヲ爲シ主務者自ラ他事件ノ差支ヘサル時間ヲ指定ス可シ午前八時トカ九時杯ト登應時間ニ一定シ一時ニ數十人ヲ召喚シ接見ヲ前後スルカ如キハ最モ不都合ナリトス彼レ若シ遲參シタルトキハ其事由ヲ糾ス可シ遲參ノ爲メ主務者他事件ニ着手シ直ニ應接取調ノ了ヲ爲サ、ルトキハ其旨豫メ本人ヘ指示スヘシ

指定時間ニ先タチ又ハ其之ヲ候タス出頭シタルトキハ直ニ接見ス可シ若シ事務上豫定ノ順序ニ變更ヲ來タスカ或ハ意外ノ出來事ヨリ直ニ接見シ能ハサルトキハ其旨斷リ置ク可シ要スルニ彼レ豫約ニ反背セハ充分督責スヘキカ故ニ主務者ニ在リテモ自カラ定メタル約束ニ背カサル様務メサル可カラス

時間ヲ指定セサルモノト雖モ出頭後故ナク半時間以上ヲ空過セシムル了ヲ得ス

一此趣意ニ反背スルノ行爲アルトキハ課署長及主務者其責ヲ免レサルモノトス

### 第十二節 分署長稟議書差出方

○本甲第四十五號 明治十八年四月廿八日 警察署  
 從來犯罪并ニ古物商質屋ニ關スル事件ニシテ稟議ヲ要スルモノハ直ニ分署長ヨリ差  
 出來候向モ有之候處自今犯罪事件ニシテ急遽ヲ要スルモノヲ除ク外ハ總テ本屬警察  
 署長ヨリ稟議可致義ト心得ヘシ此段及通達候也

第十三節 簿書閱覽心得

○本達乙第廿六號 明治十九年九月廿四日 各課  
 簿書閱覽心得

簿書閱覽心得

第一條 本部ニ備フル圖書編冊及諸記錄ハ規程ニ從ヒ內事課ニ於テ保管ス之レヲ總  
 稱シテ簿書ト云フ(內事課ハ警察職務規程改正ニ依リ警務課)  
 第二條 簿書ヲ閱覽セントスル者ハ內事課主任者ニ就キ其旨ヲ告ケ所要ノ簿書ヲ受  
 取リ閱覽畢リタルトキハ即時之レヲ返還スヘシ私擅ニ書庫ヲ搜索シ課外ニ持去ル  
 ヘカラス  
 第三條 閱覽ニ時間ヲ要シ又ハ謄寫等ノ爲メ自席ニ於テ使用セントスル者ハ內事課  
 備ヘ置キノ閱覽券ニ書名課名及年月日ヲ記入捺印シ內事課主任者ニ交付シテ所  
 ノ簿書ヲ受取リ閱覽畢リタルトキハ即時之レヲ返還シ閱覽券ヲ受取ルヘシ

第四條 簿書ノ閱覽ハ翌日ニ涉ルコトヲ得ス若シ急要ノ事故アリテ居残り又ハ自宅  
 ニテ使用セントスルトキハ其事由ヲ主任者ニ告ケ承諾ヲ受クヘシ但自宅ニ持歸リ  
 タルトキハ出勤ノ際必ス持參スヘシ

閱 明治何年何月何日  
 覽 類聚法規(又ハ)何冊  
 券 課 (閱覽者印)

第十四節 各署備付書籍

○本達乙第五十三號 明治二十一年九月五日 警察署  
 各署備付書籍別紙書目ノ通一定シ自今新版ニ係ル現行規則及參考書籍ノ買入ハ警察  
 本部ニ於テ撰定ス依リテ事務上必要ト認メ買入タキ書籍アルトキハ題號并著作  
 行者ノ氏名等ヲ申出可シ(但書ハ廢止違ノ記號ニ付略ス)

著者	現行規則ノ部
發行者	
書目	
部數冊數	
備付數	
本署一分署	







深野 達著 民事訴訟法講義(全上)	壹部	壹部	壹部
警察部 現行大阪府諸取締規則類纂 (廿四年七月警乙第五) (三三號ヲ以テ追加)	壹部	二部	壹部
南警 警察署 警察會計提要 (廿四年八月警乙第六) (一六號ヲ以テ追加)	壹部	壹部	壹部
上欄○点ノアル分ハ本分署トモ及分署備付數ノ欄ニ△点ノアル各書籍ハ買入レアル分ニ限リ備付ス			

第十五節 用紙使用區分

○部達第七號 明治二十三年十二月九日 野紙使用區分左ノ通之ヲ定ム

各課

美濃野紙之部

- 一 閣省へ差出スモノ
- 一 本府所屬外へ部名又ハ警部長名ヲ以テ發スルモノ
- 一 禁停止ニ係ルモノ
- 一 特ニ規定アルモノ
- 半紙野之部
- 一 長官警部長伺上申ニ係ルモノ

一 警部長諸達訓示等ニ係ルモノ

一 本府所屬内へ部名又ハ警部長名ヲ以テ發スルモノ

一 本府所屬ノ各課署又ハ社寺會社等へ發スルモノ

一 犯罪調書意見書檢証ノ類司法事務ニ屬スルモノ

一 特ニ規定アルモノ

○本達第八十八號 明治廿三年十二月六日

警察署

明治十七年(七月)本甲第八十號ヲ廢シ自今諸用紙ハ左ノ二種ニ之ヲ定ム

但警察日報月報用紙ノ類別ニ規定アルモノハ此限ニアラス

一半紙十一行全紙外欄寸法(竪六寸五分巾四寸五分兩面九寸)

一半紙十一行半枚外欄寸法(竪六寸五分巾四寸二分五厘)

總テ紙質ハ生漉野色ハ紅殼ニシテ全紙ハ折目ニ半枚ハ前下欄外ニ添ヘ線ヲ付シ各府署名ヲ記ス

第二十章 願伺届

第一節 警部巡查願届

○本達第廿七號 明治廿三年三月廿八日 警察署  
警部補以上身上ニ關スル諸届中左ニ記載スルモノハ高等警察課へ送付シ他ハ其署ニ

於テ保存スヘシ

印鑑及宿所牌ハ自今其署ニ於テ調理スヘシ(但書アレトモ廢止訓號ニ付略ス)

一族籍氏名ノ變換及身分上ニ關スル異動届

一病氣引籠忌引其他ノ欠勤届

一歸省轉地療養休暇旅行等ノ發着届

一結婚届

○警達第三十三號 明治廿四年五月廿七日

警察署

自今巡查ニ關スル諸願届請書ハ左ノ區分ニ依リ送付スヘシ

警察部ニ送付ノ部

一巡查身分一覽表中、氏名、住所、保証人、實父母、養父母、祖父母、妻、子、兄弟、姉妹ノ

各欄ニ關スル届

一巡查辭職、免職、吊慰金請書

警察署ニ存置ノ部

一巡查身分一覽表中、改印、疾病、看護、歸省、皆勤、休暇ノ各欄ニ關スル願届

一巡查増俸、賞與、慰勞金請書

### 第二節 人民願届差出方及取扱方

●示第六十三號 明治十九年三月十九日

警察署分署へ可差出諸願届ハ本人自ラ携帶スルノ慣習有之候處自今鑑札返納記號消却又ハ即時認可ヲ要スルモノ、外ハ成ルヘク郵便ヲ以テ差出スヘシ

但本文ノ件ト雖モ代人ヲ以テ差出シ苦シカラス

○本甲第二百三號 明治十六年十一月十四日

警察署

警察上ニ係ル取締規則中明文外ニ涉ル事項ノ特許ヲ得ントスルモノ其署ニ願書差出候節ハ其時々稟議セシメ來候儀モ有之候處自今右等ノ類有之トキハ長官宛名ニ記載セシメ而シテ其署ニ於テ願書受理シ何分ノ意見ヲ付シ其都度具申スヘシ此段及通達候也

但特ニ内達アルモノ又ハ取扱中其手續ヲ定メタルモノハ本文ノ限りニ無之候事

### 第三節 文字畫紋澹入紙製造届書差出方

●府令第九十二號 明治二十年八月廿七日

今般勅令第三十六號及ヒ大藏省令第十二號ヲ以テ文字畫紋澹入紙製造取締規則發布ニ付常廳へ差出スヘキ届書ハ製造場所轉ノ警察署ヲ經由スヘシ

○内達乙第十九號 明治廿年八月廿六日

警察署

今般勅令第三十六號及大藏省令第十二號ヲ以テ文字畫紋澹入紙製造取締規則及其届

出方發布ニ相成候ニ付テハ自然其届出ヲ等閑ニ付スル等ノヲアリテハ不都合ニ候條  
各營業者へ就キ其旨諭告スヘシ且該營業者住所氏名及其製造スル紙質等取調ノ上第  
二課長へ通報スヘシ(第二課ハ現時保安課長)

附 錄 澆入紙製造取締規則

▲勅令第三十六號 明治二十年七月廿三日

澆入紙製造取締規則

- 第一條 文字畫紋ヲ澆入タル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添へ管轄廳(東京府ハ警視廳)
- ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二條 紙幣兌換銀行券公債証書大藏省証券其他政府發行ノ証券ニ類似ノ文字又  
ハ凸ニ文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ拾圓  
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス
- ▲大藏省令第十二號 明治二十年八月十六日
- 文字畫紋ヲ澆入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添へ左ノ雛形ニ據リ  
届書ニ通テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ  
一通ヲ當省へ遞送スルモノトス

雛形(用紙半紙)

澆入紙製造届

一何々澆入紙

右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

貫 籍

年 月 日

何 某 印

廳府縣長官宛

第四節 人民願伺届郡市區町村長經由ノ別

●甲第四十二號 明治十九年三月二十五日

當廳へ差出スヘキ願伺届郡區役所經由ノ義ニ付明治十四年甲第八十八號ヲ以テ及布  
達置候處自今左記ノ事件ニ限り經由スヘシ但戸長奥印ノ義ハ従前ノ通

- 一公園地ニ關スル件 一窮民救助ニ關スル件
- 一陸海軍ニ關スル件 一借區坑業明細表差出ノ件
- 一試堀坑開報書(坑法第二章第六款ニ屬スルモノ)差出ノ件
- 一試堀及ヒ借區坑廢業ノ件 一土石堀取(坑法第一章第三款)ノ件
- 一米商會所株式取引所仲買人認許願ノ件

- 一 發火性ノ物質及ヒ火力(踏踏ヲ用ヒサル物及鋼)蒸氣力ヲ用フル製造場等ノ件
  - 一 町村分合及改稱其他地籍變換ニ係ル件 一 官地官舎拂下貸下ニ係ル件
  - 一 地租ニ係ル件
  - 一 海面及官林拂下貸下及官地官林ノ生産物拂下ニ係ル件
  - 一 山野火入及共有山取締ニ係ル件 一 學事ニ關スル一切ノ件
  - 但左記ノ各項ニ該ルモノヲ除ク(廿年府令第八十四號ヲ以テ但書中第  
二項ヲ消除シ第三項ヲ第二項トス)
  - 一 府立學校幼稚園書籍館教育博物館等ニ對スル件
  - 一 現任職員學力檢定願ノ件
  - 一 堤防樋管堰埭溜池新築及修繕其他水利ニ關スル件
  - 一 溝渠崩壞及修繕ノ件 一 堤塘川中及河岸地附洲ノ使用ニ係ル件
  - 一 橋梁新架并ニ渡船場設廢ノ件 一 道路新開及變換ノ件
  - 一 諸市場設廢ノ件
  - 一 酒造醬麵醬油開廢業又ハ代換改名轉居及鑑札失却毀損賣買讓與ニ關スル件(十九  
年府令第廿三號ヲ以テ次項商標登録及ヒ  
水項專賣特許ニ關スルニ項ヲ消除ス)
- 府令第五十七號 明治十九年十二月十八日
- 自今左ノ事項ニ關スル願何屆ノ外區戶長ノ與印ヲ要セス但法律規則ヲ以テ特ニ其式ヲ定メラレタルモノハ此限ニアラス

一 諸稅及營業ニ關スル事項

- 但左ニ掲グルモノハ此限ニアラス
- 雇人請宿看板記號願(廿一年府令第十九號ヲ以テ規則  
改正ニ依リ請宿ハ口入ト改ム)
- 質屋營業ニ關スル願屆 遊技場閉止業願屆
- 街路取締規則ニヨリ差出ス願 烟火受賣願
- 獵銃賣買讓渡屆 度量衡原價屆
- 雷管買入願 船燈販賣願
- 度量衡計算屆 發火信號器販賣願
- 飲料水販賣取締鑑札下付願
- 全上家族並雇人ヲシテ營業セシムルニ付鑑札下付願
- 製藥取締規則ニ因リ差出ス願屆 屠畜營業取締鑑札下付願
- 屠畜場讓渡屆 屠畜廢場及廢業屆
- 酒造見込種目並石數屆 酒造釀造方法屆
- 酒造見込石數增減屆 醬油製成見込石數增減屆
- 醬油製造方法屆 醬油製成見込石數增減屆
- 定設寄席興行願 定設演劇興行願
- 湯屋改築修繕讓換願 營業人力車ニ關スル願屆

- 乗合馬車ニ關スル願届
- 彫刻業ニ關スル願届
- 死畜解剖營業取締鑑札願及廢業届
- 一土地ニ關スル事項
- 一官有ノ土地建物及水面借用ニ關スル事項
- 一官有山林原野並下草拂下ニ關スル事項
- 一戸籍上ノ異動ニ關スル事項
- 一淀川流域山林諸作業ニ關スル事項
- 一濟貧恤窮及備荒儲蓄救助ニ關スル事項
- 一兵役ニ關スル事項
- 一小學校職員學力試験ニ關スル事項
- 一私立學校幼稚園書籍館ニ關スル事項
- 一公債證書所有者ニ係ル印鑑證明并ニ改姓名及死亡相續人ヨリ遺物引請届出ニ關スル事項
- 一公債證書亡失ニ關スル事項
- 一軍用銃買入及讓受渡ニ關スル事項(廿年府令第三十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス)
- 一在監人遺留金品下付ニ關スル事項(全年府令第四十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

宿屋營業ニ關スル願届

死畜解剖場賣買讓渡及廢場願届

●府令第二十三號 明治二十四年四月四日  
 自今左ニ掲グルモノヲ除クノ外間接國稅事務ニ屬スル願届ハ市長區長町村長ノ與印ヲ受クルヲ要セス

但從前ノ令達ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ總テ取消ス

- 一諸營業免許願
  - 一船船鑑札下付引換及免稅烙印願
  - 一諸車賣渡讓渡買受讓受及所有者轉居代換改氏名届
  - 一諸營業後見人届
  - 一諸營業免許鑑札書換願
  - 一諸車檢印願及破解、盜難亡失、發見届
- 乙第三十八號 明治十九年三月廿五日 郡區役所
- 左記願届ニ對スル指令等ハ其役所ヲ經テ下付可致候條此旨相達候事
- 一社寺創立再興復舊廢合移轉ノ件
  - 一西洋形商船ニ係ル件
  - 一水陸運輸業ニ係ル件
  - 一保險ニ係ル事業ノ件
  - 一新發明ノ物品製造試驗ノ件
  - 一諸營業ノ組合設立并ニ申合規則ヲ定ムル件
  - 一衛生上ニ係ル會社商社等ノ件
  - 一度量衡製作及販賣ニ關スル件
  - 一製氷蓄雪其他飲食物ノ着色品販賣ノ件
  - 一天然溫泉開止業ノ件
  - 一牛乳搾取販賣ノ件

- 一 橋梁及道路渡船等ノ賃錢ニ係ル件
- 一 私立學校幼稚園等ニ係ル件
- 一 法律規則等ノ疑義ニ付戸長ヨリ伺出ノ件

○二乙第二六一號 (郡區役所へ照會) 明治十九年四月二日

本年乙第三十八號ヲ以テ被達候指令經由條件ノ内左ノ三項警察ノ主管ニ屬スル分ハ從前ノ通貫役所ヲ經由セス所轄警察署ヲ經テ下付致候條豫メ此段及通達置候也

- 一 西洋形商船ニ係ル件
  - 一 天然温泉開止業ノ件
  - 一 諸營業ノ組合設立并申合規則ヲ定ムル件
- 追テ墓地及火葬場ニ關スル件本年甲第四十二號布達ノ條目ニ無之候得共右ハ取締規則ノ明文ニ據リ無論貫役所ヲ經由スヘキ義ト御承知有之度爲念申添候也

**第二十一章 郵便物表記方及發遣郵便取調表附御用使**

●天第二百七十七號 明治十二年八月三十日

警察署分署ニ宛タル郵便物表記ニ何地警察署何地分署ト二様ノ地名ヲ登記有之然ルニ郵便遞送ハ迅速ヲ主トシ取扱候ニ付逐一表記ヲ通讀スルニ暇ナク肩書地名ノ初筆ヲ目的トシ候ヨリ自然警察署へ誤送相成候ニ付自今管内外ヲ問ハス該分署名ノ肩へ

其地名ヲ直書候様可致此旨管内無洩相達候事

○警達第四號 明治廿五年一月廿三日

警察署

本年四月一日以後管内發遣郵便物ハ每月末日迄ノ分左表ニ依リ取調翌月三日限り報告スヘシ

種目	通數	重量	税金	書留料	別配達料	明治廿五年一月廿三日	
						第一種	第二種
第一種							
第二種							
第三種							
第一號一 個ノ物							
第二號以上 一束ノ物							
第四種							
合計							

右之通候也



年 月 日

警部長 殿

警察署長

警部氏 名印

○本乙第七十二號 明治十六年七月廿四日

區部、水上、會根崎 天王寺警察署

御用使差立ノ儀ニ付去ル明治十一年(二月)甲第廿五號ヲ以テ及通達置候義モ有之候處右ハ詮議ノ次第有之相止メ候條自今本署ヘ送付スヘキ書類物品ハ其署小使ヲ以テ每日午前第十時迄ニ本署ニ到着候様取計フ可シ此段及通達候也  
但本文書類物品ハ都テ遞付録ニ記載シ受取人ノ受領印ヲ取リ置クヘキ義ト心得ヘシ

附 錄 諸公文郵送ノ節不足稅受取先官廳ニ於テ仕拂

▲太政官第九十三號達 明治八年六月二日 院省使廳府縣

諸公文書郵送ノ節ハ量目ノ調査周密注意スヘキハ勿論ニ付差違等無之筈ニ候得共若シ前拂稅不足スル時ハ其不足稅及增稅共郵書受取先官廳ノ仕拂ニ可相立此旨相達候事

第二十二章 報告及製表

第一節 各省報告取扱手續

●廳達第四十四號 明治十九年十月一日

各部

今般内務省令第十七號ヲ以テ報告例ヲ定メラレ候ニ付テハ他ノ各省ヘ進達スルモノモ該例ニ準シ取扱フヘク依テ其手續左ノ通心得ヘシ(内務省令第十七號ハ廿三年同)一豫報即報ヲ除ク他ノ報告ハ其期限五日前必ス決裁ヲ經テ發遣スヘシ若シ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ其事由ヲ具申スヘシ

一諸報告ノ料紙(從來料紙ノ制ヲ定メタルモノヲ除ク)今般省令様式ノモノヲ用ユヘシ

一諸報告ハ總テ第一節庶務課ニ於テ取纏ムヘキニ付決裁ノ後製表ヲ同課ヘ送付スヘシ

一第一節庶務課ニ於テハ省令第八條ノ如ク同期限ノ報告ヲ一括トナシ進達ノ手續ヲ爲スヘシ

一第一項ノ期日則五日前ニ至リ送付ナキトキハ庶務課ハ其主務ニ向テ督促スヘシ

第二節 地方事務及管内景况報告方

○本達第七十九號 明治十九年十二月廿三日 各課

内務省半年報ノ儀ニ付左書ノ通一部長ヨリ照會致來候條每年一月七月前半ケ年間ノ事項ヲ調査シ其月三日限申報ス可シ(廿一年内務省訓令第二十號ヲ以テ地方ノ事務及管内景况報告ハ半年報ニ改正シ報告期限ハ二月廿日ト定ム)

庶第二五三八號 明治十九年十月廿六日 地方ノ事務及管内景况報告方定メラレ候ニ付テハ

地方事務及管内景况報告方

四百九十七

貴部ニ屬スル事務及景況等左ノ書式ニ依リ取調毎年七月五日限り當部庶務課へ御回  
有之度此段及御照會候也

何々掛

一何々……………

一何々……………

何部

一何々……………

一何々……………

凡例

一此報告ハ毎半年間ニ於テ管内ニ施シタル事務ノ成績及其景況ヲ報告スルモノナリ  
一或ル事業ヲ起シ如何ナル成績ヲ得又ハ未タ半途ニシテ如何ナル点ニ達居ルヲ等ヲ  
記スルヲ要ス

一或ル府令ヲ發シ如何ナル結果ヲ得タル等モ要用ナリ

一各主管ノ事務ニ對シ民情ノ傾向ヲモ又要用ナリ

一勅令閣令省令等ニ對シ民心ニ關ルモノハ其興廢傾向等ヲ記スルヲ要ス

一事務事蹟員數ヲ掲クル者ハ表記スヘシ但別表ト爲スニ及ハス其事件ノ下ニ表記ス

○本達乙第十七號 明治二十年二月四日

各課

内務省半年報ノ儀ニ付客年十二月本達乙第七十九號ヲ以テ相達置候處尙又左書ノ通照  
會致來候條右ニ基キ居常材料蒐集方一層注意スヘシ

庶第一九二號第一部長照會 明治二十年一月卅一日

内務報告例ニ據リ半年報ヘ掲記スヘキ地方事務并管内景況ニ於ケル其事蹟民情ヲ察  
知シ以テ將來ヲ計畫セラルヘキ施政上緊要ノ事項ナレハ尙モ民心ニ感觸ヲ與フル事  
件ハ勿論毎ニ諸般ノ事務ヲ處理スルニ方リ努メテ注意シ其盛衰利弊ノ因由ヲ究明シ  
而シテ其實質ニ徴シ正確之レヲ存記シ該報ノ資料ヲ豫集スルニアラサレハ半年ノ后  
遽カニ回想者歟スルカ如キハ杜撰誤脱ノ嫌アルノミナラス爲メニ該報ノ本旨ニ反キ  
施政ノ障礙ヲ來スナキヲ免レス因テ自今別紙書式ニ倣ヒ各課ニ於テ事務并管内景況  
存記録ヲ設ケ前述ノ旨意ニヨリ毎ニ緊要ノ事件ト認ムルモノハ細大洩サス詳密之ヲ  
登載シ定期報告ニ際シ編纂參照ノ便ニ供シ候様致度右貴部各課長ヘ示達相成度此段  
及通達候也

何々掛

何年月日 (課長認印)

一何々ノ件 本件ハ何々ニヨリ何々ノ令訓ニシテ何々々々

何年月日 (課長認印)

(主任認印)

一何々ノ件 本日何々ノ事業視察トシテ何々ニ至ル其景況ハ如左何々々々

(主任認印)

何年月日

(課長認印)

一何々ノ件 職氏名某ノ說話ニ何々ノ件ハ從來何々ノ方法ニヨリ實施サル、所ナレトモ右ハ何々ノ實驗ニヨリ將來何々ト改正セラレタシ云々

(主任認印)

### 第三節 官報材料通報心得

●丁第一號 明治十九年一月四日

各 課 署

官報材料通報方之義ハ兼テ追々相達置候處尙又今般總理大臣ヨリ被達候旨モ有之候條各課署長ニ於テ厚ク注意シ別紙通報心得ニヨリ迅速通報可致此旨更ニ相達候事

#### 官報材料通報心得

一官報々告材料ハ凡ソ別紙ノ事項ニ準據シ庶務課官報掛ヘ通報スヘシ

一總テ官報材料ノ通報ハ其事ノ確實ナルヲ要スルカ故ニ成ルヘク書面ヲ以テスヘシト雖モ又極メテ迅速ヲ要スルヲ以テ其輕易簡短ナル事柄ニ至ツテハ口頭ヲ以テスルモ妨ナシ

但口頭ヲ以テスル場合ニ於テハ官報掛員之ヲ原稿紙ヘ記載ノ上其確實ヲ證スル爲

メ該通報主務者ノ認印ヲ徴ス

通報材料ニハ其事柄ニ關係アル人名場所時日等其事目トナルヘキ廉々ヲ詳記スヘシ  
一通報事件之種類ニヨリ始終連續セサレハ其用ヲ爲サ、ルモノアリ例ヘハ前ニ旱魃ノ景況ヲ報シテ後ニ潤雨ヲ得タルノ景況ヲ報告セス又巡察使等之來着ノミヲ報シテ其出發ヲ報セサル如キノ類是ナリ其他是レニ類スルコト多シ故ニ始アリ終リアル様通報スヘキ事

一新聞紙又ハ雜誌ニ於テ本府之公務上若シ利害ニ關スル重大之件ニ付誤謬ノ說ヲ掲載セントキハ詳細事實ヲ記シ通報スヘシ

一知事書記官警部長收稅長ニ隨行出張シタル者ハ出發ハ前日歸廳ハ着后一時間内ニ通報スヘシ

一總テ通報材料トナルヘキモノハ其事件之報知書ヲ得又ハ知了シ終結シタル時ヨリ一時間内必ス通報スヘシ

一月報ニ係ルモノハ翌月七日限り半年報ニ係ルモノハ翌月十日限り年報ハ翌月十五日限り通報スヘシ

一總テ通報ヲ要スル事件出發時限前後又ハ休暇日ニ生シタルトキハ前項之手續ニヨリ官報掛員其宅ヘ通報スヘシ

一左ニ記載スル事項ハ其大概ヲ示スモノナリ他ハ類推シテ臨機通報スヘシ

通報事項

- 一 知事書記官警部長收稅長出張之發着時日(上東京ノ若發ハ東京ニ於テ直ニ内關ヘ届出ルヲ以テ通報ヲ要セス)
- 一 但廉立タル工事之落成見分開校式生徒卒業証書授與式等ノ類之如キハ其景况人員等ヲ詳記ス
- 一 勅任官巡回視察等ニ付到着出發之時日及其視察之狀況
- 一 緊要ナル諭告諭達之類
- 一 廳舎之新築移轉等
- 一 較著ナル行爲ニヨリ又ハ奇特者へ褒賞ヲ與ヘタル者ノ住所姓名及其行爲事項之概畧(賞金一圓以上ノモノ)
- 一 同上ニ付褒狀又ハ賞金(一圓未滿)ヲ與ヘタル其人員一年間之統計
  - 但 褒狀何人ト區別ス
  - 賞金何人ト區別ス
- 一 社寺ニ關スル重要ノ件
- 一 外國人雇入解約
- 一 府會之開閉并ニ其決議之要略及認可不認可之項目
- 一 府會議員之改選(議員之總數并正副議長常置委員之姓名)
- 一 徵兵使徵兵督官檢閱使等之來着并出發及其徵兵又ハ檢閱ニ係ル狀況
- 一 軍艦之出入

- 一 師範學校中學校之盛衰設廢生徒增減其原由并敎則校則之制定改正等
- 一 敎育會之興廢會員之增減並報告
- 一 一般公立學校其他各種學校之敎育上之景况及生徒之增減其原由等
- 一 諸作物之景况
- 一 旱害水害蟲害其他作物之被害景况
- 一 農業之改良又ハ開墾等ノ景况
- 一 特有物産ノ產出高及收納金高並增減其原由等
- 一 種子交換並肥料等ノ得失
- 一 有益ナル農會又ハ農事相談會等ノ景况
- 一 老農之實驗說其他農事ニ關スル古來慣習之參考トナルヘキモノ
- 一 山林又ハ水産ニ關スル一切之事項
- 一 急劇ナル物價之變動並其原由
- 一 特有物産之市價並其賣捌キ地方等(毎月取經メ報告)
- 一 每半年間公債証書之賣買出入高
- 一 西洋形並日本形船舶(日本形ハ五十石積以上)出入(毎月經メ報告)
- 一 商法會議等之議決之要旨
- 一 商業上慣習之參考トナルヘキモノ

- 一 工作製造場等ノ景況並盛衰其理由
  - 一 發明工夫ニ係ル事項
  - 一 美術之景況
  - 一 開鑿其他諸般之新工事又ハ出來大工事之參考トナルヘキモノ
  - 一 農工商諮問會及博覽會共進會等之開閉並ニ其開會中之景況
  - 一 勸業委員之緊要ナル報告
  - 一 傳染病及流行病患者中毒者ニ係ル報告並ニ停船檢疫等
  - 一 地方病ニ係ル記事
  - 一 飲食物溝渠家屋等ニ關スル衛生事項
  - 一 牛馬及鳥畜類等之流行病
  - 一 警察事項
    - 警察ニ關シテ褒賞及恩給ヲ得タルモノ
    - 物類事項
    - 人事事項
    - 賊難事項
    - 捕拿罪犯
- 以上之諸項ハ半年毎ニ其概略ヲ通報スヘシ但警察上拔群之功勞アル者(例ヘハ強方ニ)ハ其都度直チニ詳細之事實ヲ報スルヲ要ス  
(監獄署之景況(囚徒之増減種類脫獄等))

一天災并事變等

- 一 火災官舎學校病院銀行等之火災其他通常民家ノ火災ハ凡百戸以上之火災ニ至ルモノ

○明治廿二年十一月八日大阪府官報々告主任ヨリ警察部ヘ照會  
 從來官報原稿ノ内火災ハ諸官廳及官公立建物神社佛寺銀行會社ニ係リ若クハ燒死者アリシモノ、外ハ延燒三十戸以上ニアラサレハ報告不致候處今般同局照會ノ趣モ有之戸數十戸以上トシ且ツ私立學校病院等ノ如キモ著名ノモノハ其戸數ニ拘ハラズ報候事ト改メ候間右區分ニ據リ御報告相成度此段及御照會候也

### 第四節 特報内則

○本甲第二百廿五號 明治十六年十二月十七日 警察署

特報内則左ノ通相定メ候條此段及通達候也

第一條 特報ハ平素百般ノ事物ニ注意シ例規アルモノハ勿論(所轄署ハ例規ニ從ヒ)其他所轄ノ内外ニ拘ハラズ見聞偵察スル異事若クハ景狀等ヲ警部長ニ報告スル者トス

第二條 此報告ハ所屬署長ヲ經由スヘシト雖モ其隱密神速ヲ要スル者及ヒ人ノ身上ニ關スル事件ハ親展ヲ以テ直ニ進達スルコトヲ得

第三條 報告ヲ受タル署長ハ直ニ之ヲ進達ス可シ其事件ヲ可否若クハ中止スルコトヲ得ス但意見アルトキハ之ヲ付記シ又ハ別ニ申告ヲナス可シ

第四條 報告ノ事項ハ各自ノ注意ニ出ルト雖モ其概略ヲ示ス左ノ如シ

衛生

賣藥 醫師 產婆 諸病 種痘 中毒 變死 捨子 諸食物 健康妨害

風俗

孝子 義僕 不孝 不義 諸藝者 密賣淫 博奕 遊惰放逸

諸營業

古物商 質屋 諸興行 飲食店 旅人宿

工事企圖

道路開鑿其他大工事

民間苦情

學校 諸會社 戶長民間 地主小作人間 神佛祭典開帳 山林田野

道路水利

### 第五節 各署聯合通報規則

○本甲第二百四十一號 明治十六年十二月廿六日 警察署  
各署管轄ヲ異ニスレハ自カラ氣脈ノ隔絶ナシトセス依テ各署聯合通報規則左ノ通相  
定メ候條彼我相警メ取締方一層注意可致此段及通達候也

### 各署聯合通報規則

第一條 各署通報ノ聯合ヲ定ムル別表ノ如シ

但區部各署及ヒ根分署ハ電話又ハ別ニ報告ノ例規アルヲ以テ之ヲ除ク

第二條 通報ノ事項左ノ如シ

一 強盜遭難及逮捕(竊盜ハ著大ナル者并ニ特ニ關係アル者ノ外ハ之ヲ除ク)

二 謀殺及毆打致死(被告人ノ捕ニ就キタル者并ニ特ニ十七年本甲第十七號注意ヲ要スル者ノ外ハ之ヲ除ク)

三 詐欺遭難及逮捕(被告人ノ捕ニ就キタル者并ニ特ニ十七年本甲第十七號注意ヲ要スル者ノ外ハ之ヲ除ク)

四 留置及拘留人逃走

五 流行病蔓延ノ兆

六 拾得金品一圓以上又ハ必要ト認ムルモノ

七 前項ノ外異常ト認ムル件

第三條 通報ノ事故アルトキハ其要領ヲ單簡ニ摘記シ速ニ聯合各署ヘ郵送スヘシ

第四條 報告ヲ受ケタル分署ハ日報ニ記シテ根署ニ報シ根署ハ必要ト認ムル場合ニ限リ所轄分署ニ通告スヘシ

第五條 報告ヲ受ケタル事故ハ便宜揭示スヘシ  
(該則制定ノ後警察署本分署數回ノ廢設多クノ變換アルヲ以テ別表ハ省ク)

### 第六節

風水震雷戮殺火災及外國人ニ係ル異狀報告

風水震雷戮殺火災及外國人ニ係ル異狀報告

●丁第六十四號 明治十五年五月廿二日

警察本署

左ノ條項アルニ際シ所轄警察署分署ヨリ瞬速報告スルハ勿論ニ候處郡署ニシテ本署ヲ經由スレハ遅回ノ不便アル向ニ限り可成電信ヲ以テ直チニ内務省警保局長ヘ報告シ同時ニ其署ヘ通知可爲致此旨相達候事(十九年丁第六十二號ヲ以テ警察署分署ヨリ警保局長ヘ直報ヲ發ス)

- 一風水震雷ノ變災ニ罹リ人畜ノ死傷家屋田圃ノ破壊横流山岳ノ壞崩異常之事
- 一原因ノ如何ニ拘ハラズ一個ノ場所ニ於テ三人以上殺殺セラレタル事
- 一一百戸以上火災ニ罹リタル事
- 一重罪ニシテ十人以上共犯中ノ者ヲ捕獲セシ事
- 一外國人内國人ニ對シ又内國人外國人ニ對シ暴行ヲ加ヘ及其他異常ノ所行アリシ事
- 一囚犯反獄逃走シタル事

○本甲第四十七號 明治十七年四月八日 警察署

今般其筋ヨリ達ノ次第モ有之候ニ付自今左ノ場合ニ於テハ其事狀ヲ詳記シ急報ス可シ此段及通達候也

- 一禁錮以上ニ該ル可キ拘留又ハ捕獲ノ囚徒三人以上俱ニ逃亡シタル時
- 一集治檻ヘ押送ノ囚徒又ハ其他ノ囚徒ニシテ暴行ヲ爲シ逃亡シタル時
- 一已決ノ囚徒外役先ニ於テ逃亡其他ノ理由ニ依リ暴行ヲ爲シ之ヲ防止スル爲メ已ヲ得ス殺傷シタル時

### 第七節 天氣豫報及暴風警報并暴風雨水害表

○警達第三十六號 明治廿四年五月三十日 警察署

明治廿二年(三月)本達第五號ヲ廢シ更ニ天氣豫報揭示例左ノ通相定ム

揭示例

何月何日大阪測候所天氣豫報

(前日午後六時ヨリ本日午後六時マテ)

天氣 晴天云々

風位 北方ノ風云々

●告示第二百二十三號 明治二十三年八月八日

天氣豫報及暴風警報ハ別紙ノ箇所ヘ揭示候條各自左ノ説明ヲ注意スヘシ

天氣豫報ノ説明

一天氣豫報ハ大阪測候所ニ於テ毎日午後十時以後二十四時間ノ天候ヲ豫報スルモノニシテ其發布スヘキ區域大凡大阪府管内ヲ限ルモノトス但管内ニテモ土地ノ高低山海ノ向背等ニヨリ固ヨリ氣候等シカラス些少ノ差違免レス就中驟雨降雹雷電旋風ノ如キ大ニ其進路ノ方向ニヨリ襲來スルト然ラサルトノ懸隔アレハ是等ノ豫報ハ未タ施行セサルモノナリ

一天氣ハ雲ノ濃淡或ハ大陽大陰ノ面ヲ現ハスト然ラサルトニ關セス凡テ雲量ニヨリ區別スルモノニシテ滿天雲ヲ以テ蔽ヒタルヲ十トシ滿天蒼空ナルヲ零トシ左ノ割合ニヨリ判別ス

快晴ハ雲量零乃至三ナルヲ云フ

晴天ハ雲量四乃至六迄ニシテ雲少キトキ若クハ雲ノ過半ヲ覆ヒタルトキヲ云フ曇天ハ雲量七乃至十ニシテ滿天雲ニテ覆ヒ或ハ僅ニ蒼天ヲ現シタルトキヲ云フ

地方天氣豫報要語(廿五年告示第八十五號)ヲ以テ要語ヲ改正ス

風ノ部

一北ノ風 (Nly winds.)

北寄リノ風アルヲ云フ

一東ノ風 (Ely winds.)

東寄リノ風アルヲ云フ

一南ノ風 (Sly winds.)

南寄リノ風アルヲ云フ

一西ノ風 (Wly winds.)

西寄リノ風アルヲ云フ

一風ノ向キ定ラス (Variable winds.)

一定ノ風ナキヲ云フ

天氣ノ部

一晴レ (Fair.)

雲少キ天氣ヲ云フ

一曇リ (Cloudy.)

雲多キ天氣ヲ云フ

一雨 (Rain.)

多少雨降ルヲ云フ

一雪 (Snow.)

多少雪降ルヲ云フ

一雨又ハ雪 (Rain or Snow.)

多少雨又ハ雪降ルヲ云フ

一霽ナル (Clearing later.)

雨、雪又ハ曇ナルモ後チ晴レナルヲ云フ

一霧 (Fog.)

多少霧アルヲ云フ

一霜 (Frost.)

多少霜アルヲ云フ

一寒クナル (Colder.)

(冬春)前日ヨリモ大ニ寒クナルヲ云フ

一暖クナル (Warmer.)

(冬春)前日ヨリモ大ニ暖クナルヲ云フ

一涼クナル (Cooler.)

(夏秋)前日ヨリモ大ニ涼クナルヲ云フ

一熱クナル (Hotter.)

(夏秋)前日ヨリモ大ニ熱クナルヲ云フ

一暴風警報ハ大阪及大阪近傍凡廿五里以内ニ強風ノ虞アルヲ前知スルトキ揭示スルモノナレハ特ニ一小地方ニ於ケル強風ノ如キハ警報スルノ限ニアラス尙詳細ハ明治十六年七月十九日官報第十六號氣第一號報告ヲ參看スヘシ

天氣豫報暴風警報揭示場

一大阪市及堺市各警察署分署巡查派出所

一全部内曾根崎巡查派出所

一全 九條巡查派出所

一全 上福島巡查派出所

一天王寺警察署部内天王寺巡查派出所

一曾根崎警察署及全部内分署

一全 北野巡查派出所

一全 千日前巡查派出所

一天王寺警察署及全部内分署

一全部内天下茶屋巡查派出所



- 一全 東雲町巡查派出所
- 一全 河堀口巡查派出所
- 一池田警察署岡町分署
- 一岸和田警察署
- 一佐野警察署
- 一富田林警察署古市分署
- 一柏原警察署(廿四年告示第四百四十六號)
- 一八尾警察署(ヲ以テ分署ヲ警察署トス)
- 一枚方警察署守口分署
- 一梅田停車場
- 一住吉停車場
- 一湊町停車場
- 一天王寺停車場
- 一柏原停車場
- 一全 北平野町巡查派出所
- 一池田警察署
- 一茨木警察署
- 一岸和田警察署大津分署
- 一富田林警察署
- 一更池警察署
- 一柏原警察署國分分署(全上告示ヲ以テ警察署ヲ分署トス)
- 一枚方警察署
- 一堺市役所及各郡役所
- 一難波停車場
- 一堺停車場
- 一平野停車場
- 一八尾停車場
- 一府廳揭示場

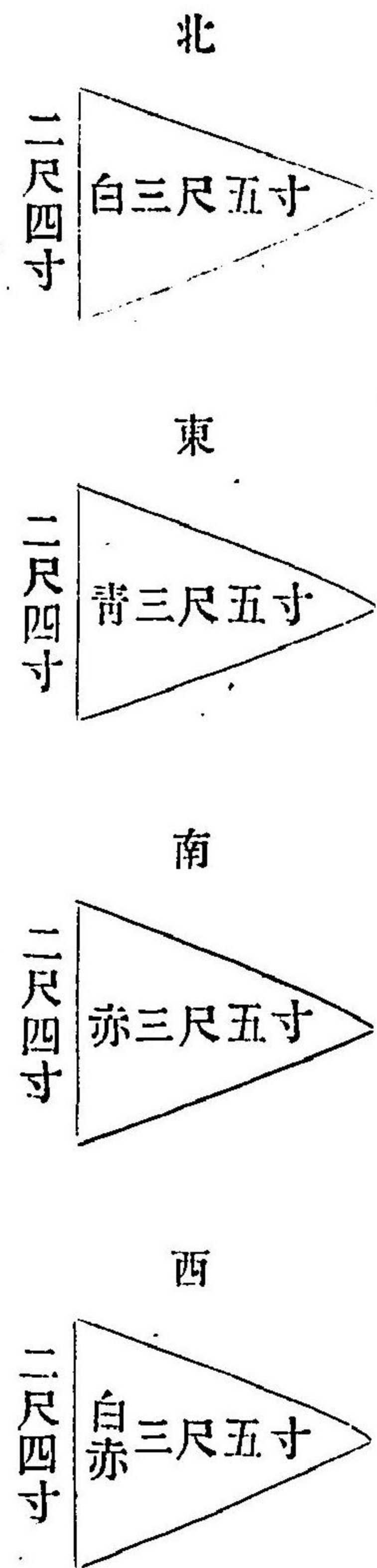
●告示第六十七號 明治廿五年五月十八日

府立大阪一等測候所内ニ天氣豫報柱木津川水上警察分署構内ニ警報信號標ヲ設立シ  
 明治廿五年六月十五日ヨリ實施ス

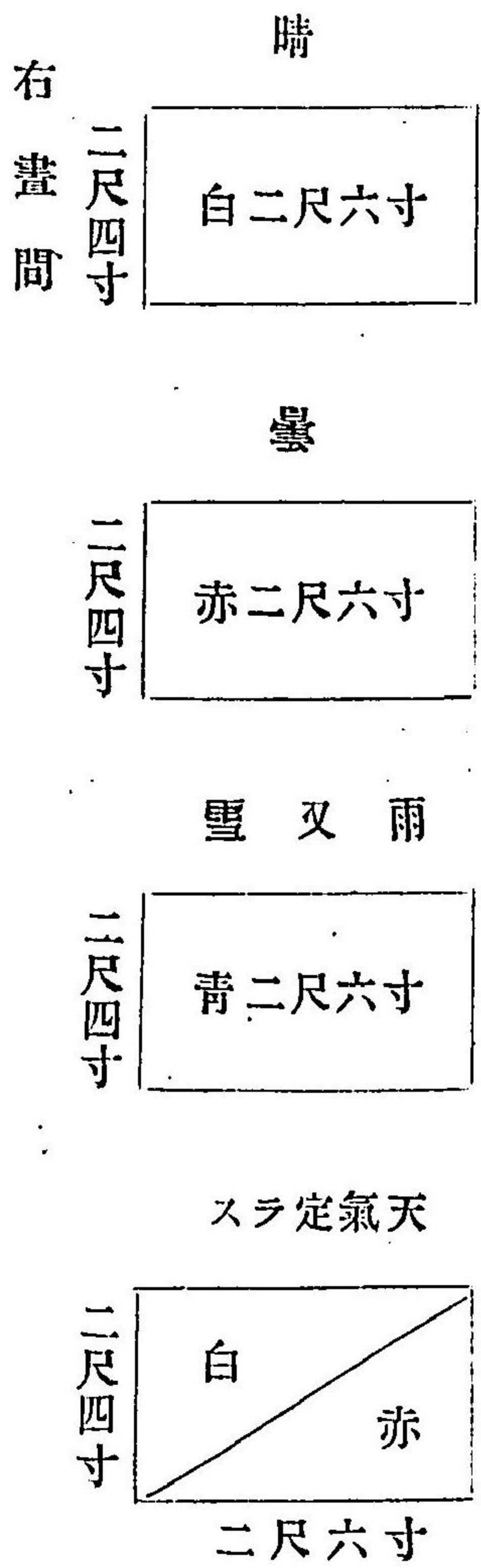
大阪一等測候所天氣豫報柱

豫報柱ハ旗又ハ燈ヲ掲ケ天氣風位及警報ヲ報スルモノトス其種類及區分左ノ如シ

風位



天氣



右畫間

天氣警報

- 一青色單燈 降雨ノ豫知シタルト掛クルモノニシテ雨ナキトハ掛ケス
- 一赤色單燈 暴雨來ラントスルヲ示ス

右夜間

本津川水上警察分署内警報信號標

本津川水上警察分署内警報信號標ハ左ノ二種トス

- 一赤色單球
- 一赤色單燈

右夜間

○本達乙第三十號 明治廿一年五月十九日

警察署 電話ナキ 署ヲ除ク

暴風ノ前兆アリテ東京氣象臺ヨリ警報アルトキハ其時々本部ヨリ電話ヲ以テ通報スヘクニ付該警報ヲ受ケタル時ハ左ノ例ニ依リ記載シ區部會天警察署ハ其署門前及巡查派出所其他ハ電話架設アル警察署分署ノ門前へ揭示シ本件ニ對スル再報ヲ待テ取除クヘシ(但書ハ廢止達ノ記號ニ付略ス)

暴風警報揭示例

何月何日午(前後)何時何分東京發警報

強風起ラントスルノ虞アリ

参考(當府測候所ノ器械ニ差タル異狀ナクシテ其旨併セテ通報アルトキハ本例ニ左ノ附言ヲ追記スヘシ)  
附言當府測候所器械ノ摸樣ニヨレハ多少ノ雨アルモ風力ハ格別ノ事ナカルヘシ

○二丙第四四三號 明治二十一年五月十九日 電話架設アル警察本分署へ通知  
今般本達乙第三十號ヲ以テ暴風警報揭示ノ儀御達相成候ニ付爲御心得別紙暴風警報說明書及御送附候也

暴風警報之說明

暴風警報ハ之ヲ揭クル場所ノ近傍二十五里(陸里)以内ニ於テ大氣ノ變動アルヲ測知スルトキハ之ヲ公衆ニ示シ殊ニ水上營業者ニ豫メ警戒セシムルモノナリ而シテ警報后別段報告セサルトキハ四十八時間ハ其警戒ヲ要スルモノナリ若シ警戒中揭示ノ場所近傍ニ於テハ強風以上ノ風力ニ達セストモ其廿五里以内ニ於テ強風アリシトキハ無論適中シタルモノニシテ水上營業者ノ如キハ尤其効益ヲ受ルモノナリ又其警報ハ暴風而已ニ止マラス強風以上ノ風力ヲモ示ス但氣象學上強風ト稱スルハ一時間速度廿二英里四(我九里六町廿四間)以上暴風トハ一時間速度三十三英里六(我拾三里廿七町三十六間)以上颶風トハ一時間速度六十二英里六(我廿五里廿三町廿二間)以上ヲ示スモノナリ尙警報ノ義ニ付詳細ヲ知ラント欲セハ官報第十六號明治十六年七月十九日內務省達氣第一號報告ヲ參看スヘシ

●示第百六十一號 明治十七年八月一日

今般當府下攝津國西成郡天保町商船取締出張所内へ暴風警報信號標并ニ富島町一丁

目商船取締所門外河岸地へ氣象揭示場設置本年八月一日ヨリ施行候ニ付テハ水上營業者ハ特ニ左ノ件々相心得各自未然ニ警戒スヘシ

一 暴風警報ハ大阪及ヒ大阪近傍ニ暴風ノ虞アルヲ前知スルトキハ之ヲ掲ケ其警戒ヲ解クニ及ヒテ之ヲ卸ス

一 警報信號ハ左ノ二種トス

日出ヨリ日沒迄ハ赤球一個ヲ掲ク(但直徑三尺)

日沒ヨリ日出迄ハ紅燈一個ヲ掲ク(但直徑八寸餘)

一 信號柱ハ三尺ツ、紅白交互ニ塗り分け地上ヨリ高サ十一間二尺アリ

一 氣象揭示場ハ普通日々氣象ハ勿論暴風警報ノ時各地ヨリ得タル報告及ヒ常測候所器械ノ變化等ヲ隨時ニ揭示ス

一 氣象揭示場ハ暴風警報アル片夜分ニ限り前三面ニ紅玻璃ヲ箝シタル六角ノ紅燈ヲ掲ク

其他暴風警報ニ關スル詳細ノ事ヲ知ラント欲セハ官報第十六號(明治十六年七月十九日木曜日發行)氣第一號報告ヲ參看スヘシ

● 告示第五十號 明治廿三年四月一日

當府大阪市北區安治川通上二丁目水上警察署構内へ暴風信號標建設シ本日ヨリ施行ス就テハ水上營業者ハ特ニ左ノ件々相心得各自未然ニ警戒スヘシ

一 暴風警報ハ大阪及大阪近傍凡二十五里以内ニ暴風ノ虞アルヲ前知スルトキ之ヲ掲ケ其警戒ヲ解クニ及ヒテ之ヲ降ス

一 信號標柱ハ三尺ツ、紅白交互ニ塗り分け地上ヨリ高サ八間五尺四寸アリ

- 一 警報信號ハ左ノ四種トス(廿五年告示第八十四號ヲ以テ本項以下改正刪除ス)
- 一 赤球一個ヲ掲クレハ暴風ノ何レヨリカ來ラントスルヲ示ス
- 二 圓錐ヲ掲クレハ特ニ天氣險惡ノ兆アルヲ示ス
- 右晝間
- 三 赤色單燈ヲ掲クレハ赤球ノ代用トス
- 四 横列二個ノ紅燈ヲ以テ赤圓錐ノ代用トス
- 右夜間

○ 警達第二十五號 明治廿五年六月十三日 警 署

暴風雨水害等アリタル時ハ其概況電話報告スルノ外別表ニ依リ取調迅速報告スヘシ

但地震落雷等ノ變災ニ因リ人畜ノ死傷家屋田園ノ破壊横流山岳ノ壞崩等異常ノ事故報告スル時モ亦本表ヲ用ユヘシ

(括弧内朱書)

明治(何)年		(暴風雨水)害報告表		(某)警察(分)署	
何月	何日	浸水	流失全損半損	破損傾斜	浸水流失全損半損破損傾斜
		床上	床下		
神	社				
佛	閣				
寺院及會堂					
官	廳				
		梁 橋			
		造木	造鐵		
		間數	間數		



### 第八節 標準時通報心得

○本達乙第百三十九號 明治二十年十二月廿八日 第二課警察署電話ナキ  
 客年(七月)勅令第五十一號ヲ以テ來ル廿一年一月一日以降本邦一般ノ標準時ヲ定メ  
 ラレ候ニ付テハ該通報心得左ノ通知定ム(現時警察署一般電話架設ス)

#### 標準時通報心得

- 一 來ル廿一年一月以降午前十一時五十分ヨリ同正午十二時五分迄ノ間一般電話ノ通  
 信ヲ止メ係員ハ各電話室ニ入り標準時正午ノ報示ヲ待ツヘシ
- 一 電話ヲ以テ標準時ヲ報示スルニハ普通ノ通信法ヲ用ヒス電話機ノ鳴鑰ヲ以テ標準  
 時ノ移報トス
- 一 電信按手ニ標準時ノ移報ヲ受クレハ備付ノ通信器ヲ以テ直ニ電話係ヘ報示スヘシ
- 一 本部電話係ニ於テハ前條ノ報示ヲ受クレハ遅刻ナク之ヲ各署ヘ傳遞スヘシ
- 一 各署ニ於テ前條ノ報示ヲ受クレハ中繼署ニ在リテハ第四項ノ手續ニ從  
ヒ直ニ其線路ノ各署ヘ通示スヘシ 時計ヲ以テ  
 標準時ヲ定メ郡區役所戶長役場學校其他人民等ヨリ標準時ノ尋ヲ受ケタルトキハ  
 之ヲ示スヘシ

### 第九節 警察部事務取扱日報調製心得

○部達第二號 明治二十四年二月四日

各 課

警察部事務取扱日報左ノ通知定ス

#### 警察部事務取扱日報調製心得

- 第一條 日報ハ各課ニ於テ前日取扱ヒタル諸件ヲ輯集調製スヘシ其調製時間ハ每一  
 課三十分以内トス
- 第二條 日報調製ノ順序ハ警務課保安課高等警察課トス高等警察課ニ於テ記載シ終  
 レハ直ニ警察部長ヘ差出スヘシ但日報ノ保存ハ警務課ノ主管トス
- 第三條 日報記載ノ文字ハ數字ヲ用ヒ金ハ厘位ニ止ムヘシ
- 第四條 伺ノ欄ニハ決裁ヲ經テ施行スルモノ上申ノ欄ニハ單ニ閱覽ニ止マルモノヲ  
 記載スヘシ
- 第五條 指令ノ欄ヲ記載スルニ當リ府名ヲ以テ指令セシモノアルトキハ知事ノ欄ニ  
 部名ノ指令ハ部長ノ欄ニ記載スヘシ
- 第六條 文書ノ欄ニハ警察部ニ於テ取扱タル一切ノ件數ヲ記載スルモノナレハ電信  
(電話ヲ除ク)ノ發着ハ勿論知事官房往復掛ヨリ配付ヲ受ケシモノ並ニ全掛ヲ經テ發ス  
 ル件數ヲモ記載スヘシ而シテ同欄中師旅團其他ノ各欄ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ
- 一 師旅團ノ欄ニハ憲兵ノ往復ヲモ記載ス
- 二 府縣ノ欄ニハ北海道廳府縣及ヒ其部署郡市區役所町村役場等ノ往復ヲ記載ス
- 三 閣省外各廳ノ欄ニハ閣省内ノ諸寮局ニ非ラサル集治監造幣局鑛山局遞信省管

理局郵便局電信局其他諸察局出張所試驗所等ノ往復ヲ記載ス  
 四 本府部署ノ欄ニハ内務部直稅署間稅署監獄署等ノ往復ヲ記載ス  
 五 全警察課署ノ欄ニハ巡查派出所ノ往復ヲモ記載ス  
 六 出張官吏其他雜ノ欄ニハ管内外官吏ノ出張先ニ係ル往復ハ勿論官幣府縣社博  
 物場大隊區監視區長浦役場學校病院銀行會社等ノ往復ヲ記載ス  
 第七條 警察部受付事務日報ノ文書ハ封書ノ儘各課ニ配付シ或ハ他ニ送發スルモノ  
 アリ又受付所ヲ經ス小使ヲシテ發送シ或ハ收受スルモノアリテ受付所ノ取扱件數  
 ヨリ多キモノトス故ニ前條ノ文書ヲ記載スルニハ各課ハ常ニ之ト對照シテ遺漏ナ  
 キ様注意スヘシ  
 第八條 新聞紙條例第十二條ニ依リ府下新聞紙雜誌等ヲ納ムル數ハ日々人民届ノ欄  
 ニ記載スヘシ  
 (日報ハ略ス)

### 第十節 各署警察事故報調製心得

○本達第九十一號 明治廿三年十二月廿三日 警察署  
 明治二十一年本達(十二月)第九號警察事故報調製心得左ノ通改定ス

警察事故報調製心得  
 通則

第一條 警察事故報ヲ別ツテ左ノ四種トス

- 一 警察日報
- 二 警察日報附錄
- 三 警察月報
- 四 警察年報

第二條 日報ハ毎日巡查交代時間ヨリ翌日交代時間ニ至ル月報ハ一ヶ月年報ハ一ヶ  
 年中取扱ヒタル事故ヲ輯集調製スヘシ

第三條 警察日報及警察日報附錄ハ水上及市部會根崎天王寺ノ七警察署分署京橋三  
津川木  
三  
 軒家難波分署除クハ翌日午前十一時迄ニ警察部ヘ報告シ其他各警察署分署  
津川木  
三  
 ノ外ハ除クハ翌日午前十一時迄ニ警察部ヘ報告シ其他各警察署分署  
津川木  
三  
 分署除クニ於テハ一ヶ月三期十日廿日三十日若クハ三  
十一日迄ノ分テ其翌日ニ省略シテ調製シ置クヘシ

第四條 警察月報ハ第一表乃至第三表ハ翌月四日第四表以下ハ翌月七日警察年報ハ  
 翌年一月廿日迄ニ警察部ヘ報告スヘシ

第五條 憲兵及ヒ各警察署間ニ相牽連スル事故ハ互ニ重複ヲ防ク方爲メ引繼キテ受  
 ケタル方ニ於テ記載シ其引繼ヲ爲シタルトキハ記載スルヲ要セス但就捕犯罪人ニ  
 係ル事故ハ此限ニ非ス

第六條 盜難人事火災其他事故ノ救護ハ事故アル場合實地ニ臨ミ救護シタル數ヲ記  
 載ス故ニ他人ノ救護ヲ受ケス自ラ其難ヲ免レタルモノ、數ハ總テ記載スヘカラス

第七條 表中記載ノ文字ハ數字ヲ用ヒ金員ハ厘位穀類ハ合位面積ハ坪位斤目ハ百二十目ニシテ斤位ニ止ム

第八條 盜難及ヒ盜難物ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 盜難ハ總テ常府管内ニ生シタル事件ヲ被害地ノ警察署ニ於テ記載スルモノトス然レモ刑事訴訟法第四十九條ニ依リ裁判所ノ管轄區域ニ基ツキ被害者ノ便宜ニ任セサルヲ得サル場合アリ故ニ若シ所轄内ノ事故ニシテ所轄外ニ係ル管内人民ノ盜難告訴アルトキハ住居地警察署ニ再度告訴シタル場合ハ之ヲ掲ケス又所轄内ノ人民カ管内所轄外ニ係ル盜難告訴アリタル場合ハ被害地警察署ニ告訴シタルヤヲ尋問シ其全ク告訴セサルモノヲ掲ケ甲乙互ニ重復ニ涉ラサル様注意スヘシ又常府管内ニ於テ他府縣人民旅行中ニ生シタル盜難モ被害者ノ便宜ニ任セ告訴セシ警察署ニ於テ記載スヘシ又假令管内人民ニ係ル盜難ト雖モ他府縣下ニ於テ生シタル盜難事件ハ一切記載スヘカラス
- 二 一度ニ二人以上ノ盜難假令ハ二人以上同時ニ追刺ニ遇ヒ又ハ宿ハ被害事件一度ナルヲ以テ一件トシテ記載スヘシ
- 三 盜難事件ヲ表中ヘ記載シタル後ニ於テ不實ナルコト發見セシトキハ記載セシ當日ノ警察日報ヲ訂正シ而シテ同空欄ニ事由ヲ記載スヘシ又警察月報ニ記載報告後ニ係ルトキハ翌月ニテ除去シ報告スヘシ

四 盜難晝夜ノ欄ヘ記載スルニ當リ晝夜不詳ノ分アリ故ニ告訴受理スル際ニ晝夜不詳ノ分アルトキハ受理官吏ニ於テ被害實況ヲ尋問シタル思料又ハ被害者ノ思料ヲ以テ記載シ其實際思料シ得サルモノハ晝ノ欄ニ記載スヘシ

五 強盜ニ遭ヒシ家ノ欄ニハ住家船ノ欄ニハ航行又ハ碇泊中人ノ欄ニハ途上追刺ニ遭ヒシ數ヲ記載スヘシ

六 竊盜ニ遭ヒシ人ノ欄ニハ湯屋店舖停車場渡船露店等ニ於ケル盜難若クハ田野山林牧場海濱等ニ遊散或ハ事業中携帯セシ物品ノ盜難ヲ記載シ拘摸ト區別ス其他屋外ノ欄ニハ濱地干場等ニ於ケル盜難ヲ記載スヘシ廿五年警達第廿一號

七 盜難物貨幣ノ欄ニハ通貨ハ勿論舊貨幣金銀塊モ時價ヲ算出ノ合記シ又穀類ノ欄ニハ米麥(粳ハ半數)大小豆並ニ蕎麥胡麻菜種ノ類モ雜穀ト見做シ其收穫前ニアリテハ見積リ數量ヲ記載スヘシ又衣類ノ欄ニハ凡着用品ヘキ長短ノ和洋服ノ

ミヲ記載シ又其他ノ欄ニハ畜類魚鳥田野ノ菜葉山林ノ竹木酒酢醬油種油石油等ノ流動物及公債證書私證書證書類ヲ以テ金員ヲ詐取セラレシモノハ貨幣ノアルモ一個ト爲シ其他ノ雜品ヲ掲ケ而シテ其一束一把一樽一罐一俵一箱一籠ナル者ハ各一個ト爲シ及ヒ極小ナル魚鳥ハ一種ヲ一個ト算出シテ記載スヘシ

第九條 就捕犯罪人違警罪犯諸犯人員ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ  
一 就捕犯罪人諸犯人員(違警罪犯諸犯人員ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ)ハ警察官吏ニ於テ取扱ヒタル人員

- ヲ總テ記入スヘキモノトス故ニ假令取調ノ上放免シタルモノト雖モ一旦取扱ヒタル人員ハ之ヲ省クヘカラス
- 二 違警罪犯ハ處斷セシ人員ヲ記載スヘシ
- 三 逮捕上甲乙ニ相牽連スル場合ハ犯人ノ捕ニ就キシ方ニ於テ記載スヘシ
- 四 二罪以上俱發ノ者ハ一罪ノ重キ方ノミニ記載シ其各別ニ處斷セラル、モノハ各算出シテ記載スヘシ

警察日報及附録

- 第十條 盜難空欄ニハ竊盜遭難及ヒ一事件ニシテ金五拾圓以上ノ財産ニ係ル竊盜詐欺遭難ノ概略ヲ記載スヘシ又就捕犯罪人ノ空欄ニハ前盜難ニ係ル犯罪者并ニ殺傷放火犯其他人民ニシテ捕拿上功勞著大ナル犯罪事件ノ概略ヲ記載スヘシ
- 第十一條 變死傷人員ハ通常ノ變死傷者ト警察上ノ爲メ死傷セシ者ト混同セサル様記載シ而シテ該變死傷及ヒ火災空欄ニハ總テ事故ノ概略ヲ記載スヘシ
- 第十二條 定員現員欠員ノ欄ニハ假令當日ノ日報乙部ノ記事ナルモ甲乙兩部ノ惣員及兩部ヲ區別シタルモノヲ掲ケ部長看守以下配役ノ欄ニハ當日勤務巡查ノ配役自宅養生以下不勤ノ欄ニハ當日不勤巡查ノ數ヲ掲クヘシ廿五年警達廿一號ヲ以テ本條ヲ追加シ以下順次採下ク
- 第十三條 雜報欄ニハ判任官以上ノ來署及ヒ天災并ニ外國人事故等ノ概略ヲ記載スヘシ

第十四條 警察日報附録中取扱事故名ナキルハ空欄ニ事故名ヲ増加シテ記載スヘシ但道路妨害制止或ハ車馬妨害制止或ハ説諭ニ因リ違警罪其他ノ罪ニ觸レサル者或ハ雜事ト云フカ如キ漠然タル事故名ヲ記載スヘカラス

警察月報

- 第十五條 第一表中盜贓物發見ノ欄ニハ贓物ヲ被害者ニ還付スルト否トニ拘ハラズ總テ實物發見ノ數ヲ記載シ其贓物ノ計算掲載方ハ第八條第七項ノ例ニ依ル
- 第十六條 第二表就捕犯罪人違警罪犯諸犯則人員現行犯ノ欄ヨリ自首ニ至ル欄ハ一切ノ犯罪人ヲ記載シ而シテ同表内譯送致ノ欄ニハ管轄裁判所其他各所ニ送致セシ犯罪人及ヒ警察署ニ於テ處斷セシ人員ヲ記載シ説諭ノ欄ニハ犯狀酌量スヘキ廉アリテ説諭放免セシ人員ヲ記載シ解放ノ欄ニハ犯罪ノ證據不充分ニシテ解放セシ人員ヲ記載スヘシ但各所ヨリ引繼キテ受ケシ犯罪人ハ第九條三項ニ依リ之レヲ除クヘシ
- 第十七條 第三表犯罪人内譯ハ刑法及ヒ違警罪ニ係ルモノハ其條項犯則者ニ係ルモノハ其年番號ヲ各順序ヲ逐フテ記載スヘシ而シテ解放人員ノ内譯ハ召喚若クハ引致ノ際何犯ナリト思料シタル事實ヲ記載スヘシ
- 第十八條 第四表賭博犯ハ賭博ノ件數ヲ記載スルモノトス故ニ支件ヲ生スル場合ハ其支件數ヲ除クヘシ又違警罪犯處斷ハ無罪免訴拘留科料ノ合計人員ト第二表中及



ヒ第三表中ノ人員ト符合スルモノトス

第十九條 第五表監視人員ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 監視中ノ逃亡者報告後捕拿シ説諭ノ上尙ホ監視執行スルトキハ人員其他ノ欄ニ記載スヘシ
- 二 管内各警察本分署間ノ出入人員ハ出入各其他ノ欄ニ記載スヘシ
- 三 管内甲署ニ執行中ノ者逃亡シテ乙署ニ捕拿セシ片ハ乙署ハ之レヲ報告シ甲署ハ其人員ヲ記載スヘシ

第二十條 第六表火災ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 軒數ノ欄ニハ住家ナレハ一電ヲ以テ一軒ニ算シ一軒内雜居ノ數竈ニ學校病院寺院等ナレハ一構ヲ以テ一軒ニ算スヘシ然レモ其一構内一二棟ノ焼失モ尙ホ一軒ニ算シテ記載スヘシ
  - 二 山林田野ニ係ル物置小家及ヒ番小屋等ノ火災又ハ船舶ノ火災アルルハ山林田野船舶ノ空欄ヘ様式ニ掲クル例ニ基ツキ其實事ヲ記載スヘシ
  - 三 救護ノ欄ニハ全燒セシ家ニ密着シタル家屋ノ消止及ヒ半燒又ハ出火ニ至ラントスル消止メ又ハ土藏納屋離レ座敷等ノ焼失ノミニ止マルモノヲ記載スヘシ
- 第二十一條 第七表自死ノ欄ヨリ過失殺傷ノ欄マテハ通常ノ變死傷人員ヲ掲ク故ニ警察上ニ死傷セシ人員ト混同セサル様記載スヘシ而シテ誤死其他(飢餓ノ次欄ヲ云フ)

不詳殺傷其他ノ欄及ヒ自死者年齡因山等ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 誤死ノ欄ニ記載スルモノ夥多アルカ工事ノ際職工ノ不注意ヨリ其職工カ死傷セシ者又職工ニ非ラサルモノ、(殺傷罪事件ニ係ル者ヲ除ク)死傷者ヲモ記載スヘシ
  - 二 其他ノ欄ニハ天災火災等ニ非ラサル自然家屋ノ破壊ニ因リテ死傷セシ者ヲ記載スヘシ
  - 三 不詳ノ欄ニハ水溺者ニシテ死体腐敗シ自死謀故殺、天災死、病死々々体毀棄等ノ別判明セサルモノヲ記載スヘシ
  - 四 殺傷其他ノ欄ニハ發狂者醉狂者一時憤怒等ノ類ニテ殺傷セラレシ者ヲ記載スヘシ
  - 五 自死者ノ因由ハ成ルヘク詳ニスルヲ要ス故ニ精神錯亂セシ者ノ如キモ其因由假ヘハ米穀相場ノ損失ニ因ルト推知セシ片ハ「米穀相場ノ損失ニヨリ發狂」ト其推知セシ事實ヲ掲ケ又同自死者ノ年齡ハ凡ソ十年毎ニ區別アレハ其年齡ノ詳ナラサルモノモ成ルヘク推究シテ之レヲ掲ケ檢視上自死ト認ムルモ死体腐敗シ年齡不詳者ノ如キハ其實自死ト認ムル能ハサルヲ以テ第二十一條第三項不詳ノ欄ヘ記載スヘシ(廿五年警達第二號ヲ以テ本項中追加)
  - 六 殺傷ノ欄盜賊ニヨリ其他ニ至ル目殺傷ト並記アル殺ノ目ニハ殺サレントセシモノ、ミヲ掲ケ傷トアル目ニハ傷セラレシモノ、ミヲ掲ケヘシ全上邊ヲ以テ本項中追加ス
- 第二十二條 第八表古物商ノ居商支店行商露店ノ欄ハ一名ニシテ各鑑札ヲ受ケシ者

ハ各欄ニ分載スヘシ又瀟車發着度敷乗客人員收入金高ハ鐵道局鐵道會社等ヨリ遊里藝妓幫間ノ欄ハ其取締ヨリ劇場ノ欄ハ興行主ヨリ娼妓檢査ノ欄ハ驅懲院ヨリ町藝妓ハ郡市區役所ヨリ各材料ヲ得テ記載スヘシ(全上達ヲ以テ本條中追加ス)

第二十三條 第九表告訴發受理件數ノ欄ニハ盜難告訴ヲ記入シ警察吏ノ告發ハ除クヘシ又同表強盜遭難再掲ノ欄ハ憲兵隊取扱ノ數ト重複ヲ防ク爲メ設ケタルカ故ニ數人カ追剝ニ遭ヒシ場合ハ一々其被害者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第二十四條 第十表警察署分署取扱事故別ハ本年前年ノ取扱事故ヲ本分署ニ大別報告スルモノニシテ本年ノ分ハ墨書前年ノ分ハ朱書スヘシ

第二十五條 第十表中巡回遊客人員及ヒ盜罪再犯再掲ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 巡回ノ欄ニハ派出所詰巡査ノ運動勤務ハ度敷延時間凡之ヲ除キ宿泊ニ係ル巡回ハ度敷ハ一度延時間ハ宿泊中ノ休憩時間ヲ除キ實際巡回セシ時間ヲ記載スヘシ
- 二 遊客人員ノ欄ハ第卅條ノ例ト同シク滯留者ヲ除キ新ナル客人ノ數ヲ記載スヘシ
- 三 盜罪再犯再掲送致ノ欄ニハ強盜竊盜詐欺罪ノ前科ヲ通算シ又説論ノ欄ニハ説論放免ニ係ル數ヲ通算シテ各再掲スヘシ

第二十六條 第十表警察雜報ハ表中ハ數位ヲ以テ記入セシ事實ヲ前年或ハ前月ト比較シ著シキ増減アルトキノ事由又ハ暴風雨震雷等ノ天災事故外國入事故耕作物ノ景况其他緊要ト認ムル事故ヲ記載スヘシ

第二十七條 第十二表本表ハ警察日報附録ノ事故ヲ合載シ「第十二表行政事故取扱」ノ十字ヲ記載シテ第十一表ノ次ヘ合綴スヘシ

警察年報

第二十八條 第一表文書取扱ハ左ノ例ニ依リ記載スヘシ

- 一 警部長上申ノ欄ニハ署員ノ身上又ハ臨時事件ノ上申ニ止マラス警察報告例ニ依リ報告スヘキ諸件ヲモ記載スヘシ
  - 二 各師旅團ノ欄ニハ憲兵ノ往復ヲモ記入スヘシ
  - 三 各府縣ノ欄ニハ北海道廳府縣及ヒ其部署郡市區役所町村役場等ノ往復ヲ記載スヘシ
  - 四 閣省外各廳ノ欄ニハ閣省内ノ諸寮局ニ非ラサル集治監造幣局鐵道局鑛山局遞信省管理局郵便局電信局其他諸寮局出張所試驗所等ノ往復ヲ記載スヘシ
  - 五 本府部署ノ欄ニハ內務部直稅署間稅署監獄署等ノ往復ヲ記載スヘシ
  - 六 同警察部署ノ欄ニハ巡查派出所ノ往復ヲモ記載スヘシ
  - 七 出張官吏其他雜ノ欄ニハ管内外官吏ノ出張先ニ係ル往復ハ勿論官幣府縣社博物場大隊區監視區長浦役場學校病院銀行會社等ノ往復ヲ記載スヘシ
- 第二十九條 第二表電話取扱中繼ノ欄ニハ機械着發ノ中繼ニ係ル一件二度ノ取扱數ヲ一件トシ記載スヘシ

第三十條 第三表人民願屆ノ欄ニハ迷子其他口述ニ係ル願屆ヲモ記載スヘシ  
 第三十一條 第四表止宿人員入泊ノ欄ニハ新ナル入泊者ヲ記載ス故ニ一ケ年間ニ千人ノ入泊者アリテ年末ニ十人滞在在者アレハ出立ノ欄ニ九百九十八ト記載スヘシ又滞在ノ欄ニハ入泊ノ翌日ヨリ宿泊セシ者ヲ記載スヘシ  
 第三十二條 第五表銃獵許可數ハ免狀遺失盜難破損等ノ書換再度渡ヲ除キ全ク最初許可セシ數ヲ記載スヘシ  
 第三十三條 第九表及第十表取締營業ニ關スル禁止者ハ廢業ノ欄ニ合載シ停止者及ヒ娼妓失踪者ハ廢業ト見做シ廢業ノ欄ニ合載シ而シテ解停者及ヒ復歸者ハ新ニ開業ト見做シテ記載スヘシ又規則ノ改正ニ依リテ自然廢業セシ者ハ廢業ノ欄ニ記載スルハ勿論ナレモ繼續營業ニ係ル者ハ總テ欄内ニ除クヘシ  
 第三十四條 第十二表埋火葬人員傳染流行病ノ欄ニハ虎列刺腸室扶斯發疹室扶斯質布の里亞赤痢痘瘡麻疹ノ七病死者ヲ記載スヘシ  
 第三十五條 第十三表品觸實効訴出人員ノ欄ニハ古物商質屋銀行ガ訴出タル度數ヲ記載シ犯人就縛ノ欄ニハ訴ニ依リ犯人ヲ就縛セシ人員ヲ記載シ犯人不就縛ノ欄ニハ訴出テ度數ノ内犯人不就縛ノ度數ヲ記載シ發見品ノ欄ニハ訴品ニ依リ端緒ヲ得テ發見セシ品ノミヲ記載スヘシ但品觸ヲ待タス訴出タル事件モ合載スヘシ  
 第三十六條 第十五表船舶ノ欄ニハ船籍所在ノ郡區ヲ區別シテ記載スヘシ

第三十七條 第十六表船舶所有者及船數ノ欄ニ掲グルハ本籍ノ者ハ郡區他管ノ者ハ國別シテ記載スヘシ  
 第三十八條 第十七表難破船ノ欄ニハ船籍ノ管内外ニ拘ハラス水上警察署及ヒ管内各浦役場ニ於テ取扱ヒタル事實ヲ記載スヘシ表中船種ハ蒸氣風帆日本形五百石以上五百石未滿淨漁船及小廻船ノ五種ニ區別シテ記載スヘシ  
 第三十九條 第十八表本表ハ警察月報第十二表ノ事故ヲ合載シ「第十八表行政事故取扱」ノ十字ヲ記載シテ第十四表(水上署ハ第十七表)ノ次へ併綴スヘシ  
 (警察事故報諸様式ハ略ス但警察月報及年報ハ數表アルヲ以テ其表名ヲ掲載ス)

警察日報ノ部  
 警察月報ノ部

第一 盜難及盜贓物發見  
 第二 就捕犯罪人並違警罪諸犯則人員  
 第三 就捕犯罪人並違警罪犯則內譯  
 第四 賭博犯件數及違警罪犯處斷  
 第五 監視人員  
 第六 火災  
 第七 變死傷人員  
 第八 諸取締營業並危險衛生ニ關スル諸場月末現員及雜  
 第九 告訴發受理件數及強盜遭難再掲  
 第十 警察署分署取扱事故別

各署ニ於テ記載必要ト認ムル事故日報道宜調製及日報付録事故報告期限 五百三十四

第十一 警察雜報

警察年報ノ部

- 第一 文書取扱
- 第二 電話取扱
- 第三 願伺届
- 第四 止宿人員
- 第五 銃獵許可數
- 第六 民事裁判公力執行件數
- 第七 家宅捜査
- 第八 遺失物賊置捨品及漂流物
- 第九 諸興行
- 第十 遊里地名及貸座敷娼妓開廢業
- 第十一 屠宰場及營業者雇人屠殺數
- 第十二 埋火葬人員
- 第十三 品觸實効
- 第十四 諸取締營業並危險衛生ニ關スル諸場
- 第十五 船舶
- 第十六 船舶所有者及船數
- 第十七 難破船

第十一節

各署ニ於テ記載必要ト認ムル事故日 報適宜調製及日報付録事故報告期限

○警丙第一三六號

明治二十一年十二月三十日

今般本達第九號ヲ以テ警察事故報被定候處從前ノ事務取扱日報表式ナキ所謂各署ノ内ニハ該表中屠畜場貸座敷娼妓等其他往々不用ニ屬スル空欄アリ而ノ必用ト見認ル

事故ヲ記載スル能ハサルコトアルヨリ必竟各署ノ便宜ニ任セ調製セシメラル、精神ニ有之候就テハ月報年報等ノ材料ニナルヘキモノハ勿論其他必用ト見認メラル、事故ハ從前ノ如ク事務取扱日報ヲ適宜ニ調製可相成義ト御心得有之度此段及御通牒候也 (本達第九號ハ廿三年本達第九十一號ヲ以テ改正)

○警丙第二一三號

明治二十二年四月一日

警察日報附録之事故ハ一ケ年四回其筋ヘ報告候ニ付四七十一ノ各月ハ前月中ノ事故ヲ特ニ三日迄御報告相成度豫テ此段及御照會候也

第十二節

定例并臨時諸表達ヒアルトキ付箋 照會ノ件

●二丙第一一八六號

明治十八年七月三十一日

各

署

從來定例并臨時諸表達アルトキハ付箋ノ上照會書ヲ附シ及御照會候處自今右等ノ節ハ照會書ヲ省キ付箋ノミヲ以テ及御照會候條御更正ノ上其儘御送付有之度豫テ此段及御照會候也

第十三節

檢事ヘ送致犯罪事件表

○警達第九號

明治二十四年三月十一日

警

察

署

定例并臨時諸表達ヒアルトキ付箋照會ノ件 檢事ヘ送致犯罪事件表

五百三十五

檢事へ送致犯罪事件表更ニ別表ノ通定ムルニ付罪科報告表ニ因リ調製シ毎月二十日迄ニ報告スヘシ

(用紙美濃紙)

明治二十年 何々警察署長 何々警察部 氏 名 何々警察署長 氏 名 何々警察部 氏 名

種別	本月送致件數	未濟人員		既	
		自前月越員	本月送致員	檢事不起訴	豫審免訴
別本署					
何々分署					
分署					
分署					
分署					
分署					
分署合計					
合計					
公判無罪免訴					

至翌月越人員	人員					計
	常府管外裁判所へ移ス	死亡	逃亡	上訴	受刑	

第十四節 圖表掲出

○本達乙第百一號 明治二十年八月廿九日 警 察 署  
巡閱官其他ノ閱覽ニ一方便ナラシムル爲メ左ノ圖表ヲ調製シテ本分署ノ應接所ニ掲ケ置クヘシ (圖表ハ畧ス)

一大阪府管内全圖

右圖ハ警察本部編輯ノ圖面ニシテ表具ハ茶色トス

軸 製

圖表掲出

一警察本分署區畫及巡回線路圖

軸製 幅五尺

右圖ハ本分署共本分署ノ線路ヲ記載セシ同一ノモノヲ掲ケ表具ハ茶色トス

一警察事故月次比較表

額製

右表ハ本署ハ本分署ノ事故ヲ合載セシモノヲ別ニ一面調製シテ掲クヘシ

第十五節 現住戸數人口町村別調査年表

○本達乙第三百三十四號

明治二十年十二月廿四日

警察署

現住戸數人口町村別調査年表別紙之通相定候條四區ハ甲様式郡部ハ乙様式ニ基ツキ調製シ翌年一月十日限リ報告スヘシ

甲(四區警察署)様式

町名	戸數	人口	内	
			男	女
某町何通何丁目	何百戸	何百人	何百人	何百人
同 何丁目	、、	、、	、、	、、

明治何年十二月卅一日 現住戸數人口各町別調査年表 某警察署

某 何番丁	某 町	某 詰町	某地何番丁	同 何番丁	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
合 計	何万何千戸	何万何千人	何万人	何万人																

乙(郡部警察署)様式

明治何年十二月卅一日 現住戸數人口町村別調査年表 某警察署

某警察署直轄内

現住戸數人口町村別調査年表

町村名	戸數	人口	内	
			男	女
某町	何千戸	何千人	何百人	何百人
某村	何百戸	何百人	何百人	何百人
某村	何十戸	何十人	何十人	何十人
某新田	、	、	、	、
某新田	、	、	、	、
某村	、	、	、	、
某村	、	、	、	、
某村	、	、	、	、
某新田	、	、	、	、
某村	、	、	、	、
某新田	、	、	、	、
小計	何萬戸	何萬人	何百人	何千人

町村名	戸數	人口	内	
			男	女
某村	何百戸	何百人	何百人	何十人
某村	何千戸	何百人	何百人	何十人
某村	何百戸	何百人	何百人	何百人
某新田	何千戸	何百人	何百人	何十人
某新田	何百戸	何百人	何十人	何十人
某村	○	○	○	○
某村	○	○	○	○
同郡某村戸長役場	○	○	○	○
某新田	○	○	○	○
某新田	○	○	○	○
小計	何千戸	何千人	何千人	何千人
合計	何萬戸	何萬人	何萬人	何萬人

現住戸數人口町村別調査年表

- 一 戸長役場名ハ該場ノ所在地名ヲ記ス
- 一 戸數人口ヲ掲載スルハ巡查戸口調査ノ員數ニ因ル
- 一 表中ノ○點ハ獨立無人家町村ノ記載方ヲ示ス
- 一 用紙ハ十三行美濃野紙ヲ用ユヘシ

第二編 安 寧

第一章 非政談演說及學術會

●府令第五五號 明治二十年十月廿二日

非政談演說若クハ學術會ト唱ヘ公衆ヲ集メ木戸錢又ハ敷物料等ヲ受ルモノハ名義ノ何タルニ拘ハラス明治十五年(九月)甲第九十三號布達寄席取締規則ニ準據スヘシ但即日ヨリ施行ス

附 錄 集會及政法社

▲法律第五十三號 明治二十三年七月二十五日

集會及政法法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ

名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收証ヲ交付スヘシ届書ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年齢ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラサレハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限り本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス



第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ハラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條 凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ヲ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

- 一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ
- 二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ此ノ場合ニ於テハ全會ヲ解散セスシテ單ニ其一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得
- 三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其尋問ニ答ヘサル片
- 四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ
- 五 第四條第十條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前條ニ同シ

第十六條 第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同シタル者及其ノ之ヲ制止セサル發起人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ニ背キタルハ發起人及教唆人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ之ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其領收證ヲ交付スヘシ役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八時以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政社ニ加入スルヲ得ス

第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用キルコトヲ得ス

第二十八條 政社ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス

第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、ル片又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其役員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス第二十三條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐僞ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十二條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ前項ニ同シ

第三十三條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用キタル者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其役員及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス  
第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

附 錄 集會條例犯則者届出方

▲内務省番外 明治十三年五月六日

府 縣 東京府 除ク

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官ニ於テ處分セシ分并罰科ニ處セラレタル分其時々事由詳細當省へ可届出此旨相達候事(集會條例ハ廿三年法律第五十三號ヲ以テ改正)

附 錄 官吏公衆ニ對シ演說制限

▲内閣訓令 明治二十二年一月廿四日

各 官 廳

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ  
法律規則ヲ以テ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニアラス

附 錄 保安條例

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

▲勅令第六十七號 明治二十年十二月二十五日

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄留スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限り退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限り期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四 旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二

百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス  
第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

附 錄 豫 戒 令

▲勅令第十一號 明治二十五年一月二十八日

豫 戒 令

- 第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得
- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
  - 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
  - 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
  - 四 第二號又ハ第三號ニ掲グル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタルモノ
- 第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ
- 一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス

- 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
  - 三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
  - 四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此限ニ在ラス
- 前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ  
前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ  
前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス
- 第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ
- 第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違犯シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違犯者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作り其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルヲ第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ悔改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本會ノ施行ニ關スル事項

ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルヲ得

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

### 附 錄 決 闘 罪

▲法律第三十四號 明治廿二年十二月二十八日

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ミニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ証人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹毀ノ罰

ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

## 第二章 新聞紙及圖書出版

### 第一節 新聞紙雜誌雜報受賣營業者届出

●甲第十五號 明治十九年二月六日

新聞紙雜誌雜報ノ類ヲ其發行所發賣所發賣人ヨリ受賣營業セントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其題號并ニ發行所ヲ記シ所轄警察署ニ届出可シ其種類ヲ増減シ又ハ族籍住所等ヲ轉換シ若クハ廢業シタル時亦同シ若シ之レニ違犯シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラル可シ但從前ノ營業者ハ本月二十日限り本文ノ届出ヲ爲ス可シ右布達候事  
○本甲第十七號 明治十九年二月六日  
警察署 水上署  
本年甲第十五號布達ニ依リ新聞紙雜誌類ヲ受賣營業之儀届出候時ハ其題號及發行所並ニ其族籍住所氏名等第五部ニ報告シ其種類ヲ増減シ又ハ族籍住所ヲ轉換シ若クハ廢業等届出ノ節モ其都度通報ス可シ此段相達候也(第五部ハ現時高等警察課)

### 附錄 新聞紙條例

▲勅令第七十五號 明治二十年十二月廿八日

#### 新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府ハ)ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ

二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ

第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ

定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出チナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出チナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トメ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルヲ得  
學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出チナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤チナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞紙ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ  
正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明



記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ常人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス  
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉

ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニス  
 ルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許ストヲ得若シ其證明ノ  
 確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ  
 第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害  
 ナ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處  
 分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視  
 廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキ  
 ハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ  
 第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一  
 項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行  
 シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ  
 罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月  
 以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタ  
 ルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下  
 ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下  
 ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ  
 第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮  
 又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行  
 人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ  
 罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス  
 第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ  
 輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ル者ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
 第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
 第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六ヶ月トス  
 第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例

ニ依ル

附 錄 新聞紙ニ關スル諸屆書式

▲内務省告示第一號 明治廿一年一月廿六日

新聞紙ニ關スル諸屆書式左ノ通相定ム

發行屆書式 但用紙美濃紙以下之ニ同シ

何新聞(雜誌)發行屆

一題號

何新聞

一記載ノ種類

政治法律農工商業等ノ類

一發行ノ時期

毎日、毎週、毎月何回、一箇年何回ノ類

一發行所

府縣國郡區町村番地何社(社號ナキモノハ戶主ノ氏名)

一印刷所

同

住所

一發行人

氏 名

何年何月生本月何年何ヶ月

一編輯人

氏 名

何年何月生本月何年何ヶ月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クルトキハ茲ニ列記スヘシ

同

一印刷人

氏 名

何年何月生本月何年何ヶ月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書)

ナテ管轄廳ヘ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年 月 日 發行人 氏 名 印

内務大臣某殿

題號變更屆書式

何新聞改題届

一何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏 名 印

内務大臣某殿

種目變更屆書式

何新聞記載ノ種目變更屆

- 一 現今種類 政治、法律、農工商業其他何々
- 一 變更種類 何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保証金ヲ納メテ發行シタルモノノ更ニ保証金ヲ要スル種類ニ變更スルモノノ例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保証金何圓、若クハ國立銀行ノ預リ手形公債証書ヲ以テ納置候間此段御届申上候也

(保証金ヲ納メ發行シタルモノノ更ニ保証金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノノ例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保証金御下渡之儀ハ管轄廳へ可申出候間此段御届申上候也

年 月 日

內務大臣某殿

發行人 氏 名 印

發行人變更屆書式

何新聞發行人變更屆

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノノ例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ)候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引繼發行致候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例ニ全シ)

年 月 日

舊發行人 氏 名 印

(發行人死去ノキハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス)

住 所

新發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

編輯人印刷人變更屆書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更屆

舊編輯人(又ハ舊印刷人)氏名

住 所

新編輯人(又ハ新印刷人)氏名

何年何月生本月何年何ヶ月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏 名 印

內務大臣某殿